



リケンテクノス株式会社

# 決算・経営概況説明会

2026年3月期 第2四半期(中間期)

2025年11月13日



# 2026年3月期 上期決算説明

## SECTION

- 01 2026年3月期 上期決算概要
- 02 セグメント別概況
- 03 中長期的取り組み

# 2026年3月期上期 連結業績サマリー



(単位：百万円)

	2025年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	前年同期比	増減率	2026年3月期 上期業績予想
売上高	63,391	65,567	2,176	3.4%	64,500
売上総利益	11,712	12,612	900	7.7%	-
営業利益	4,776	5,533	757	15.8%	4,700
経常利益	4,708	5,486	778	16.5%	4,600
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,614	3,461	847	32.4%	2,600
1株当たり中間純利益(円)	47.92	68.63	20.71	43.2%	50.8
ROS(%)	7.5	8.4	0.9	-	7.3
EBITDA	6,726	7,520	794	11.8%	-
ナフサ価格(円/kl)	77,950	64,750	▲13,200	-	70,000
平均為替レート(円/USD)	152.33	149.00	▲3.33	-	140.00

■ 5期連続で上期売上高および各段階利益が**過去最高**を更新

# セグメント別売上高推移

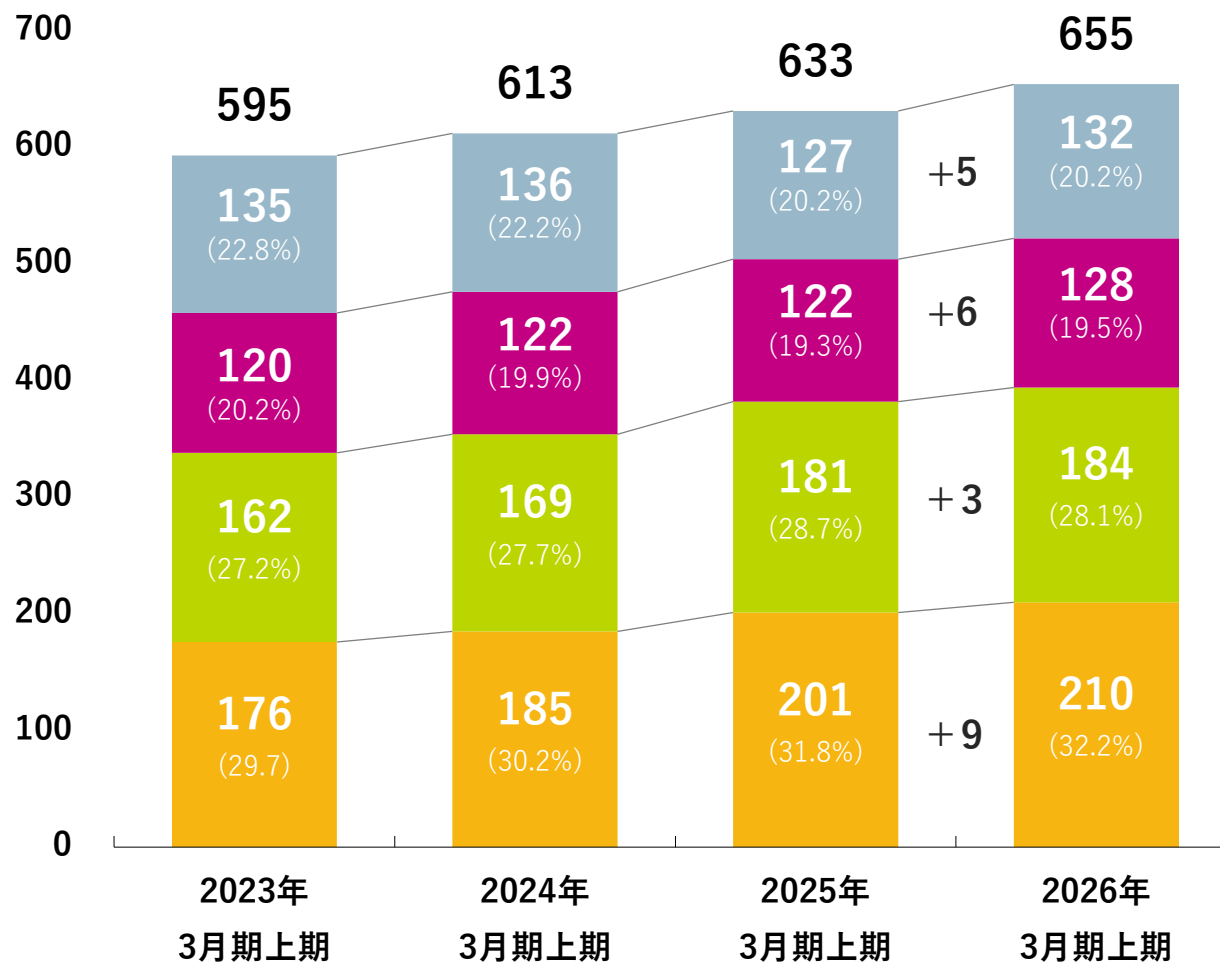


2026年3月期上期 売上高

655億円

前年同期比21億円増（3.4%増）

(億円)



■ Building & Construction  
住宅、ビル、建築資材、土木市場等



■ Electronics  
エネルギー、情報通信、IT機器市場等



■ Daily Life & Healthcare  
医療、生活資材、食品包材市場等



■ Transportation  
自動車、鉄道、船舶市場等

※棒グラフ中のカッコ内%表示は  
全体に占める各セグメントの割合

# 地域別売上高推移

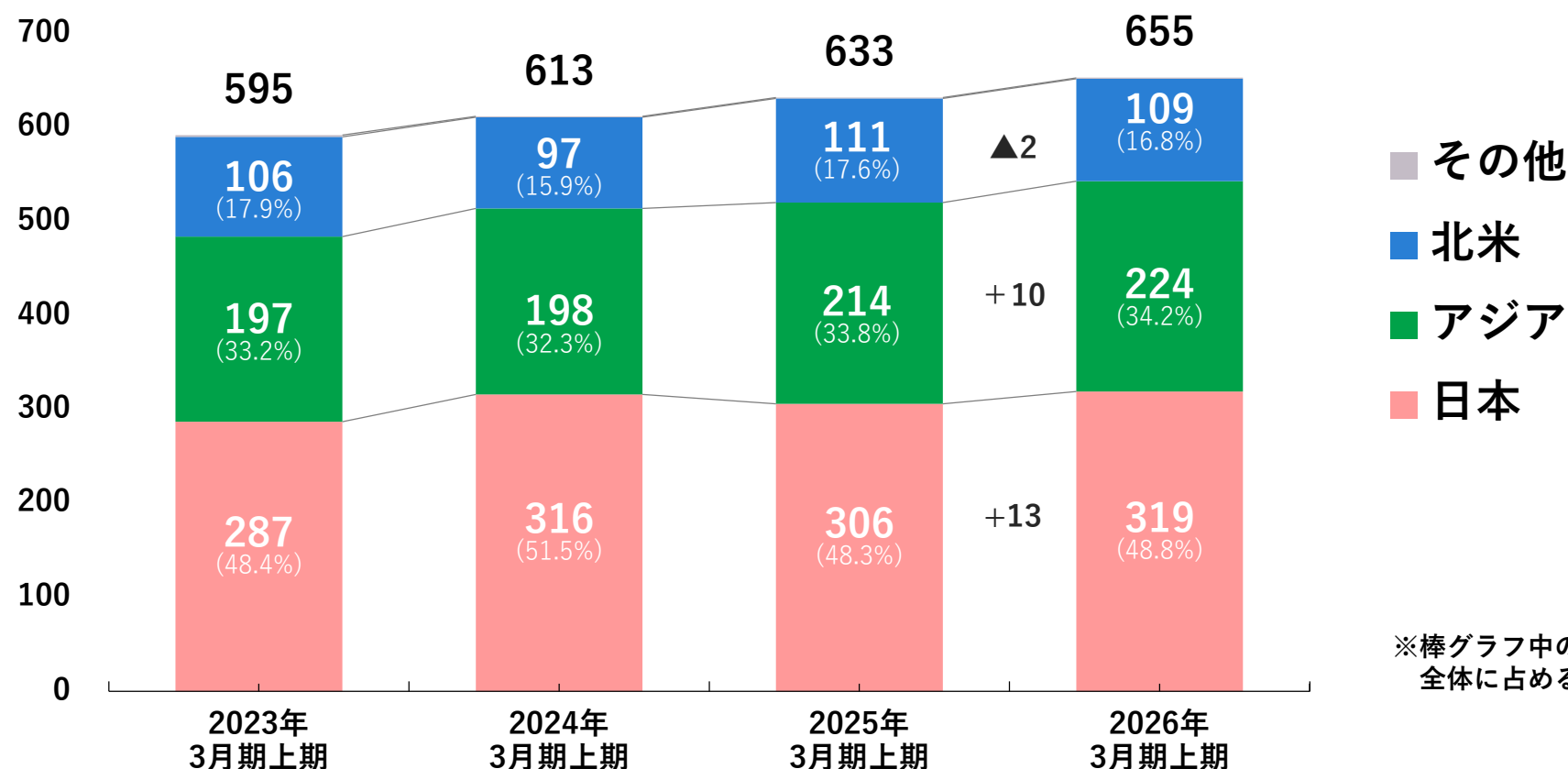


2026年3月期上期 売上高

655億円

前年同期比21億円増（3.4%増）

(億円)



※棒グラフ中のカッコ内%表示は  
全体に占める各地域の割合

海外  
売上高比率

51.6%

48.5%

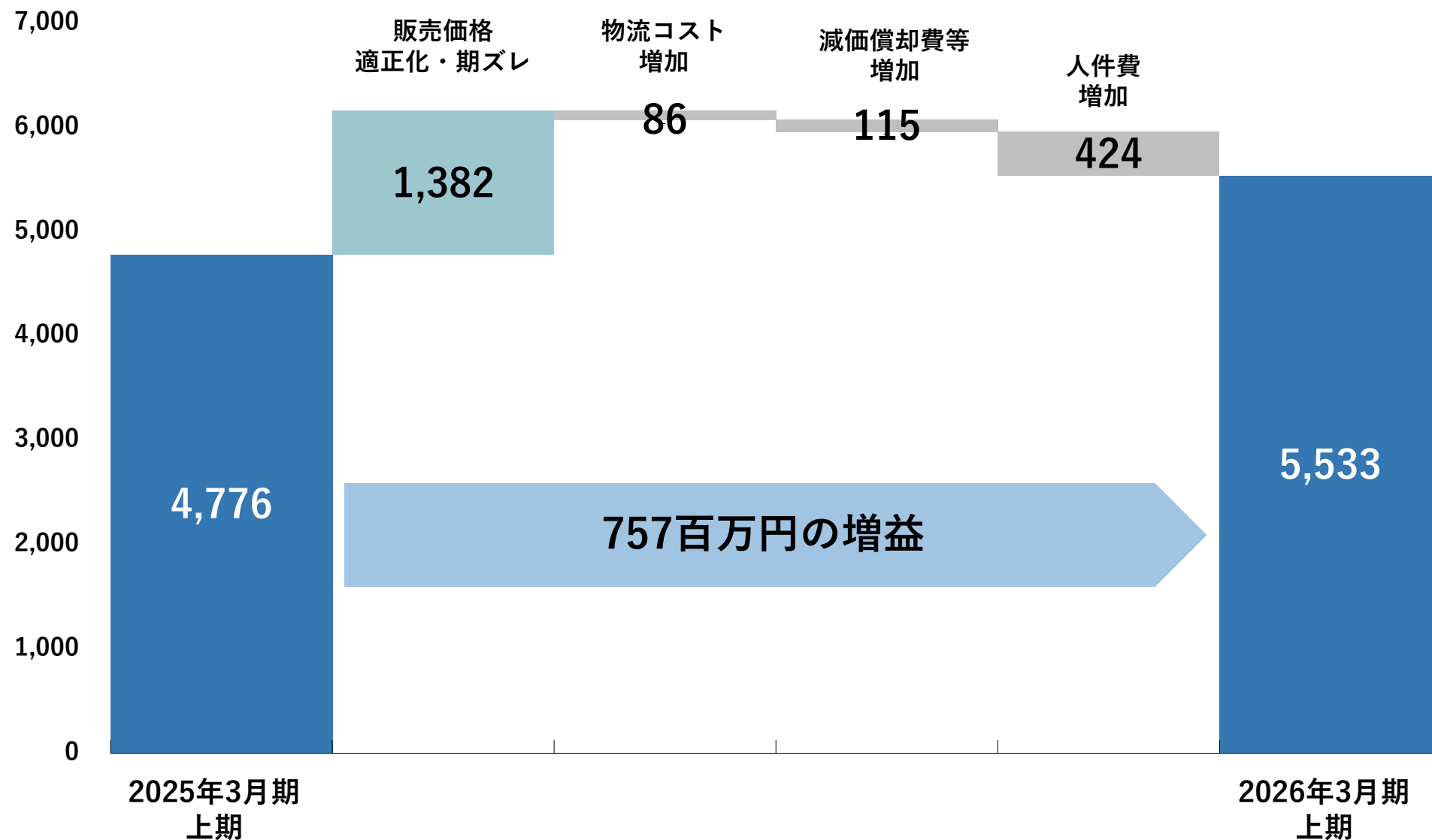
51.7%

51.2%

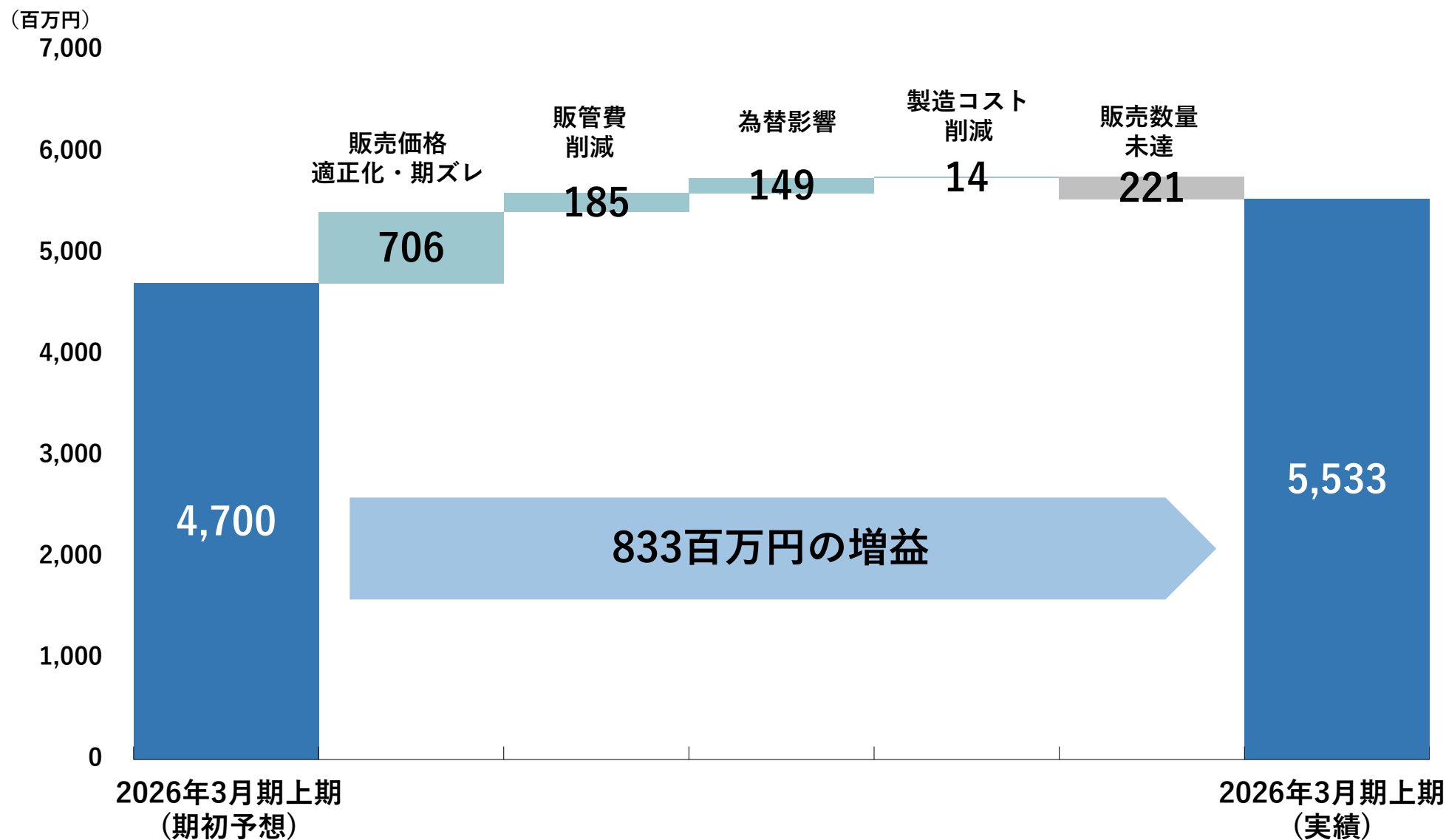
# 営業利益 前期比増減要因分析



(百万円)



# 営業利益 予想比増減要因分析



# 連結貸借対照表



(単位：百万円)

	2025年 3月末	2025年 9月末	増減		2025年 3月末	2025年 9月末	増減
流動資産	74,322	74,116	▲206	負債	40,689	41,207	518
現金及び預金	24,472	25,701	1,229	流動負債	34,958	33,499	▲1,459
売上債権	26,869	26,911	42	固定負債	5,731	7,707	1,976
棚卸資産	21,852	20,175	▲1,677	純資産	75,780	73,573	▲2,207
その他	1,128	1,327	199	資本金	8,514	8,514	-
固定資産	42,146	40,663	▲1,483	資本剰余金	6,597	6,597	-
有形固定資産	30,583	28,659	▲1,924	利益剰余金	42,595	42,478	▲117
無形固定資産	2,646	2,378	▲268	その他有価証券評価差額金	3,615	4,226	611
投資有価証券	6,194	6,998	804	非支配株主持分	10,911	9,862	▲1,049
投資その他の資産	2,722	2,627	▲95	その他	3,548	1,896	▲1,652
資産合計	116,469	114,780	▲1,689	負債純資産合計	116,469	114,780	▲1,689

- 遊休土地売却により有形固定資産は減少
- 政策保有株式の売却により投資有価証券簿価は減少
- 有利子負債は11,502百万円



# 連結キャッシュ・フロー計算書



(単位：百万円)

	2025年3月期 上期	2026年3月期 上期	増減
a.営業活動によるキャッシュ・フロー	5,952	7,071	1,119
b.投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,220	▲306	1,914
有形固定資産の取得	▲2,038	▲2,497	▲459
有形固定資産の売却収入	3	1,894	1,891
無形固定資産の取得	▲172	▲55	117
投資有価証券の売却収入	107	298	191
その他	▲120	53	173
c.フリー・キャッシュ・フロー (a+b)	3,732	6,765	3,033
d.財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3,952	▲4,748	▲796
自己株式の取得	▲1,738	▲2,417	▲679
配当金の支払額	▲1,112	▲1,400	▲288
その他	▲1,102	▲931	171
e.現金及び現金同等物に係る換算差額	697	▲634	▲1,331
現金及び現金同等物の増減額 (c+d+e)	477	1,382	905
現金及び現金同等物の期末残高	22,328	25,829	3,501

# 2026年3月期 連結業績予想



(単位：百万円)

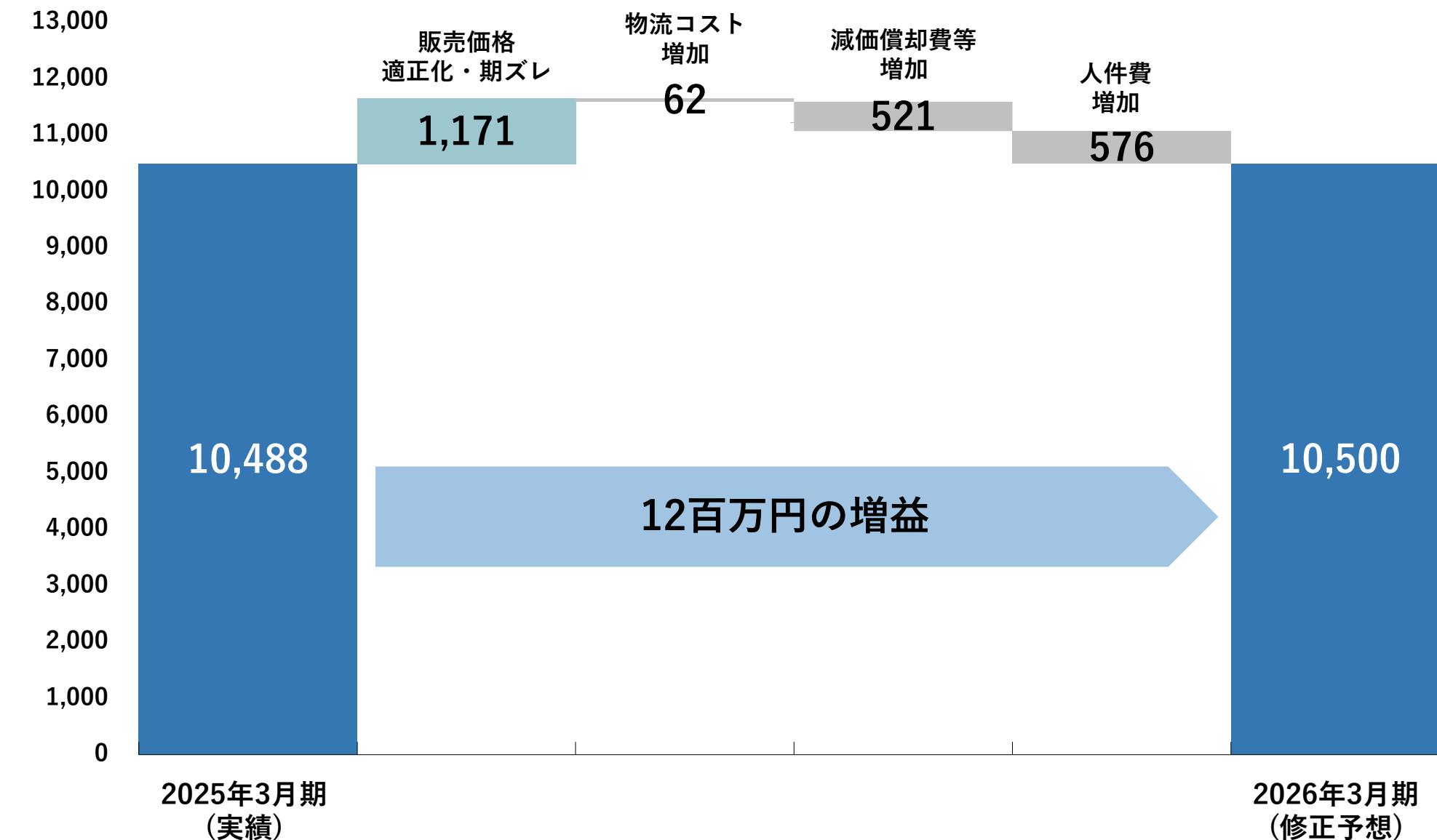
	2025年3月期 実績	2026年3月期 期初予想	2026年3月期 修正業績予想	従来予想比		前期比	
				差額	伸び率	差額	伸び率
売上高	128,141	134,000	134,000	0	0.0%	5,859	4.6%
営業利益	10,488	10,500	10,500	0	0.0%	12	0.1%
経常利益	10,587	10,300	10,300	0	0.0%	▲287	▲2.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,370	5,800	6,500	700	12.1%	▲870	▲11.8%
1株当たり当期純利益(円)	137.67	113.33	131.99	18.66	0.16	▲5.68	▲4.1%
ROS(%)	8.2	7.8	7.8	0.0	-	▲0.4	-
ROE(%)	11.4	8.7	10.3	1.6	-	▲1.1	-
ROIC(%)	11.0	11.0	11.0	0.0	-	0.0	-
EBITDA	14,576	14,000	14,800	800	5.7%	224	1.5%
ナフサ価格(円/kl)	75,625	70,000	64,000	▲6,000	-	▲11,625	-
平均為替レート(円/USD)	151.47	140.00	149.00	9.00	-	▲2.47	-

- 上期は期初予想を上回るも、ナフサ価格に連動した販売価格の低下により、通期売上高は期初予想を据え置き
- 政策保有株式の売却により、当期純利益は期初予想を上回る見込み

# 2026年3月期(予想)営業利益 増減要因分析



(百万円)



# 2026年3月期 上期決算説明

## SECTION

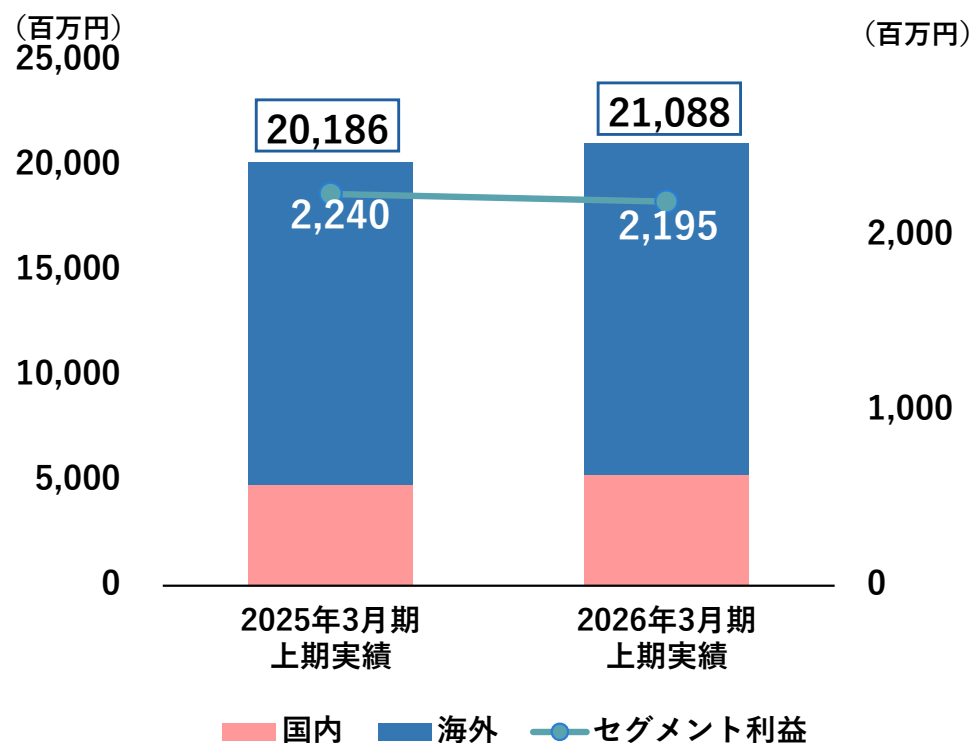
- 01 2026年3月期 上期決算概要
- 02 セグメント別概況
- 03 中長期的取り組み

# Transportation



2026年3月期  
上期実績

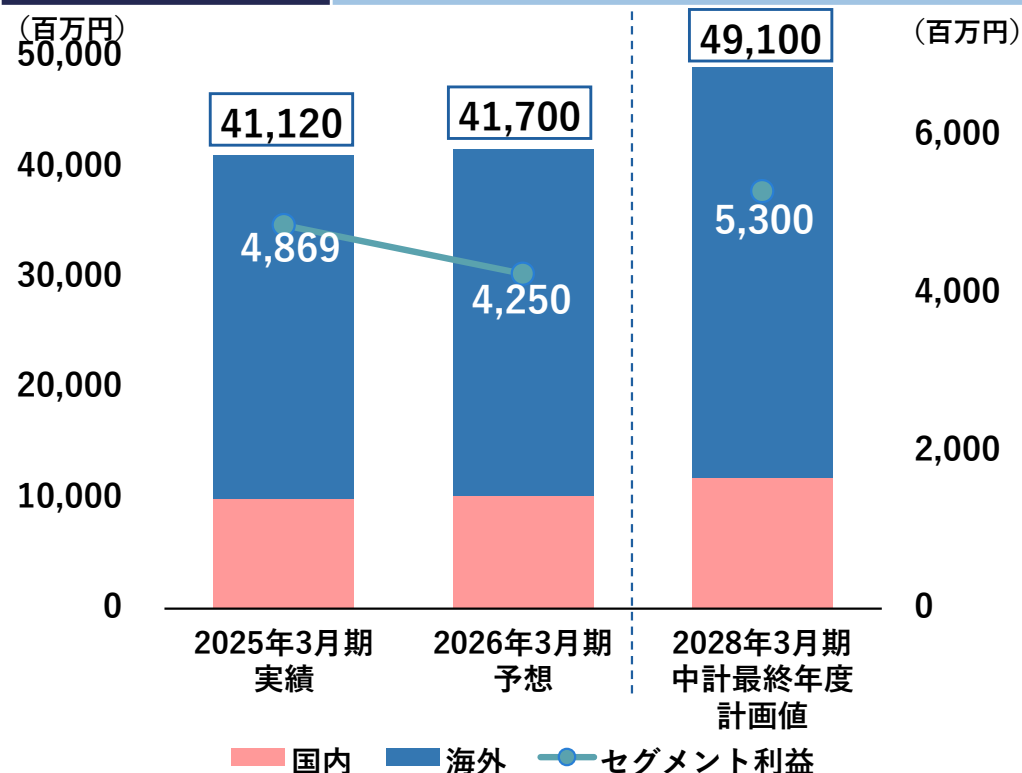
902百万円増収 (+4.5%)  
45百万円減益 (▲2.0%)



- 国内では、エラストマーコンパウンドの販売増加により、増収
- 海外では、ベトナム国およびタイ国での塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- セグメント利益は、国内外での販売が増加したものの、国内外での設備投資によるコスト増により、前年同期並み

2026年3月期  
通期予想

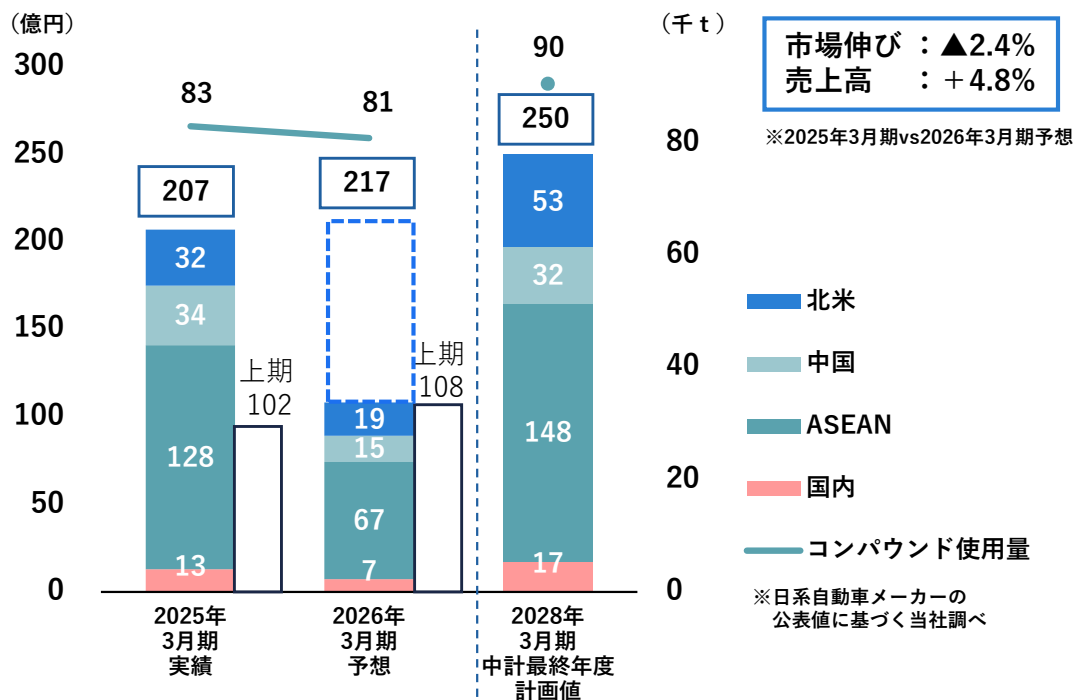
580百万円増収 (+1.4%)  
619百万円減益 (▲12.7%)



- 国内では、エラストマーコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、ベトナム国の塩ビコンパウンドおよびタイ国のエラストマーコンパウンドの販売が増加し、増収
- セグメント利益は、国内外での販売が増加したものの、ナフサ変動に伴う販売価格の期ズレ、国内外での設備投資によるコスト増により、減益

## 重点分野① 車両用電線

日系W/Hメーカーコンパウンド使用量と当社車両用電線向けコンパウンドおよびフィルムの売上高



### 2026年3月期 上期実績

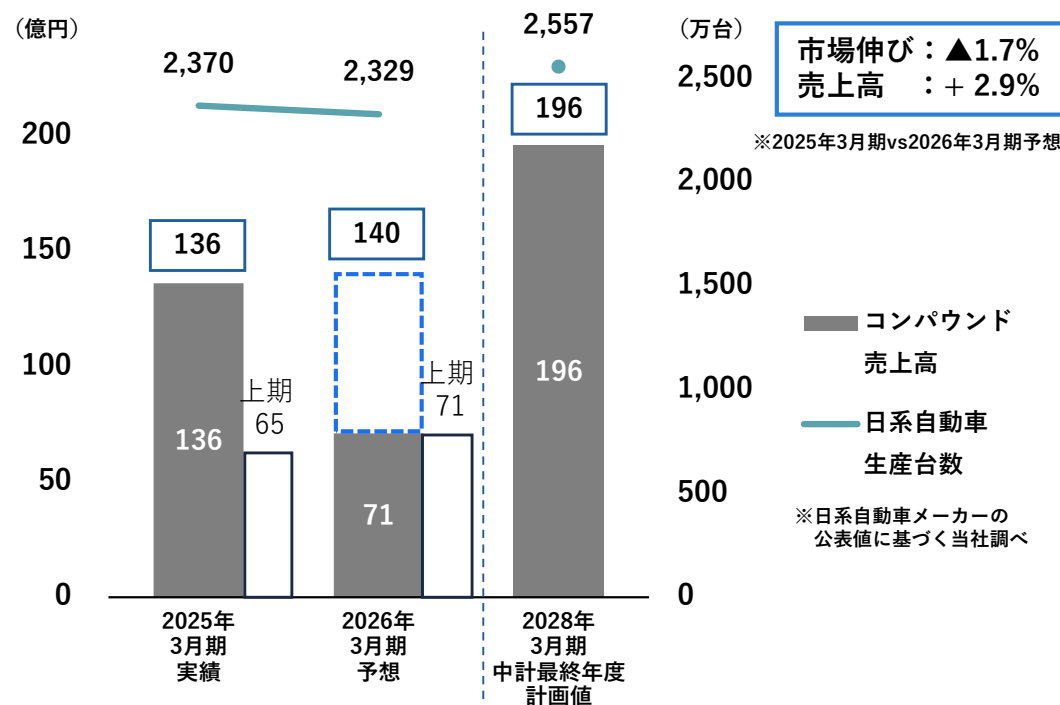
- 市場優位性のある薄肉電線コンパウンドを販売開始
- 非日系向け拡販
- 高圧ケーブル向け新規材料の顧客評価開始

### 2026年3月期 下期施策

- 市場優位性のある薄肉電線コンパウンドをグローバルで切替促進し、競争が激化する地域へ展開
- 非日系向けの拡販
- 高圧ケーブルの顧客承認獲得

## 重点分野② 自動車用成形部材

日系自動車生産台数と当社自動車用成形部材向けコンパウンド売上高



### 2026年3月期 上期実績

- 日本で顧客に新規採用されたシール部品をグローバルに展開 (ASEAN・北米)
- ゴム代替部品、外装INJ部品等の機能部品で新規販売開始

### 2026年3月期 下期施策

- 日系シール部品の新規顧客承認獲得とグローバル展開
- 市場で多数実績のあるモール材のグローバル展開
- 各種機能部品、ゴム代替の推進と海外展開

# Daily Life & Healthcare



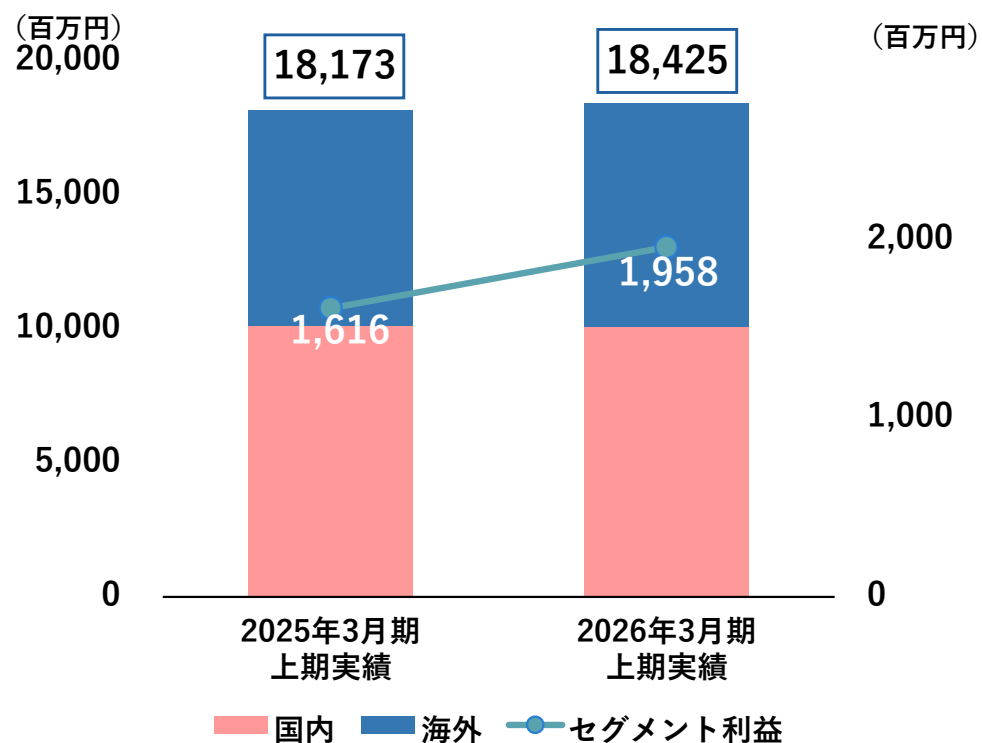
DAILY LIFE  
& HEALTHCARE





2026年3月期  
上期実績

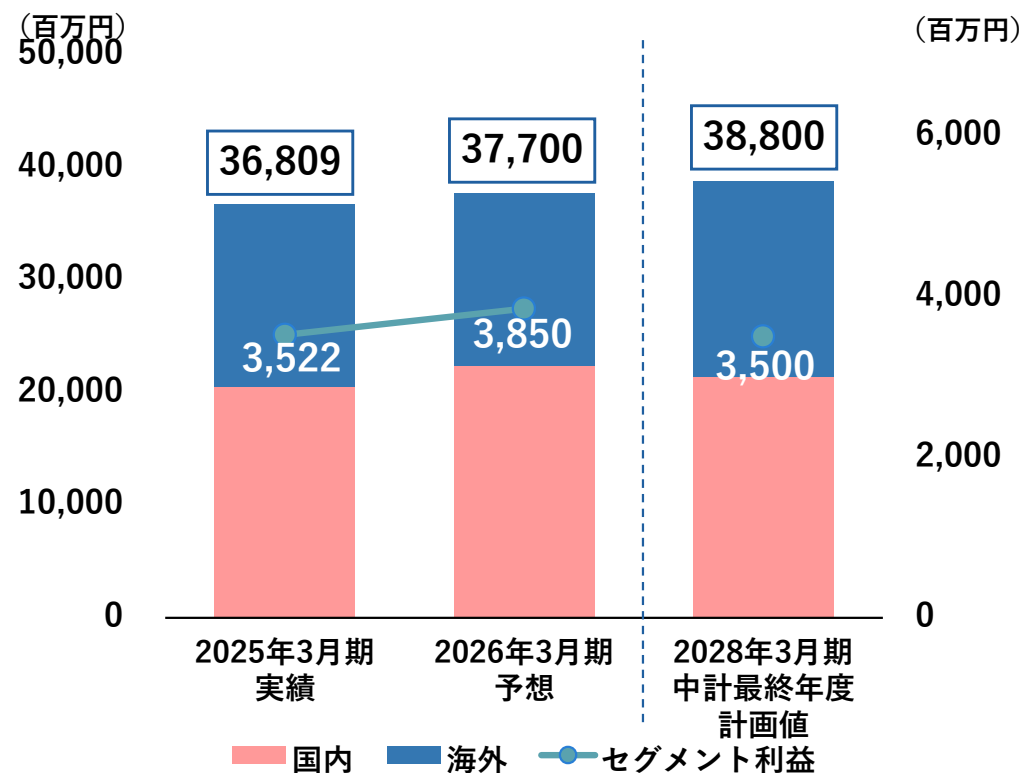
252百万円増収 (+1.4%)  
342百万円増益 (+21.1%)



- 国内では、生活資材向け塩ビコンパウンド、エラストマーコンパウンドの販売が堅調に推移したものの、家庭用ラップの販売が減少し、減収
- 海外では、主にASEANでの医療市場向け塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- セグメント利益は、国内外でのコンパウンドの販売増加により、増益

2026年3月期  
通期予想

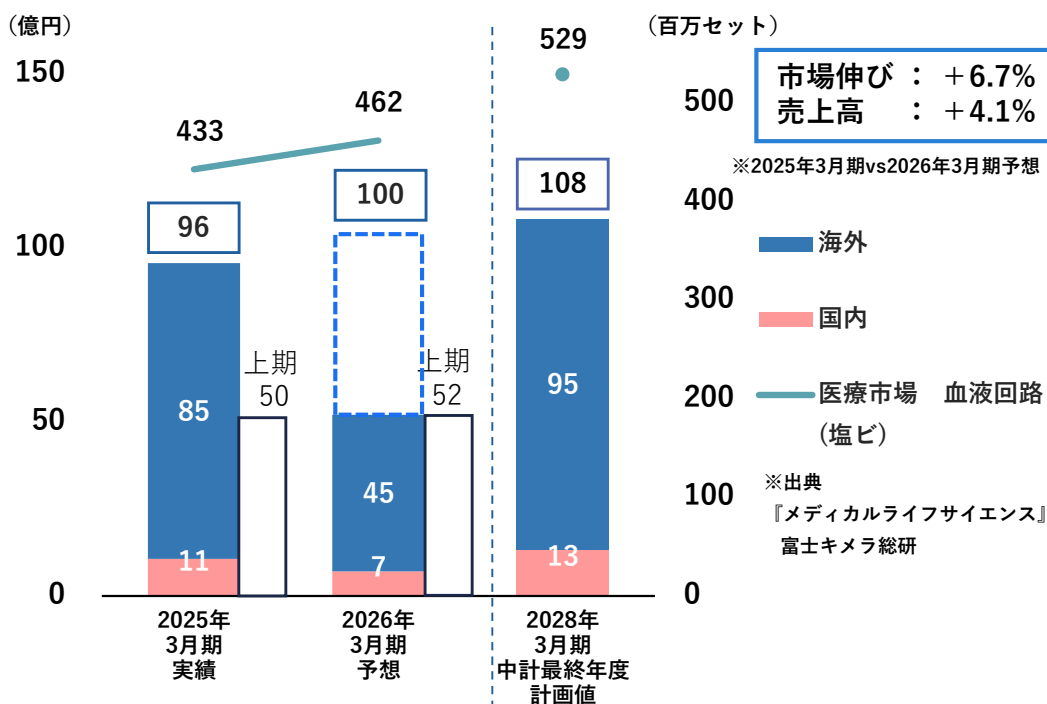
891百万円増収 (+2.4%)  
328百万円増益 (+9.3%)



- 国内では、家庭用ラップの販売が減少するものの、生活資材向け塩ビコンパウンド、エラストマーコンパウンドの販売が堅調に推移し、増収
- 海外では、ASEANでの医療市場向け塩ビコンパウンドが堅調に推移し、増収
- セグメント利益は、国内外でのコンパウンドの販売増加により、増益

## 重点分野① 医療用（血液回路・シングルユース）

透析回路の販売数量と当社医療用コンパウンド売上高



### 2026年3月期 上期実績

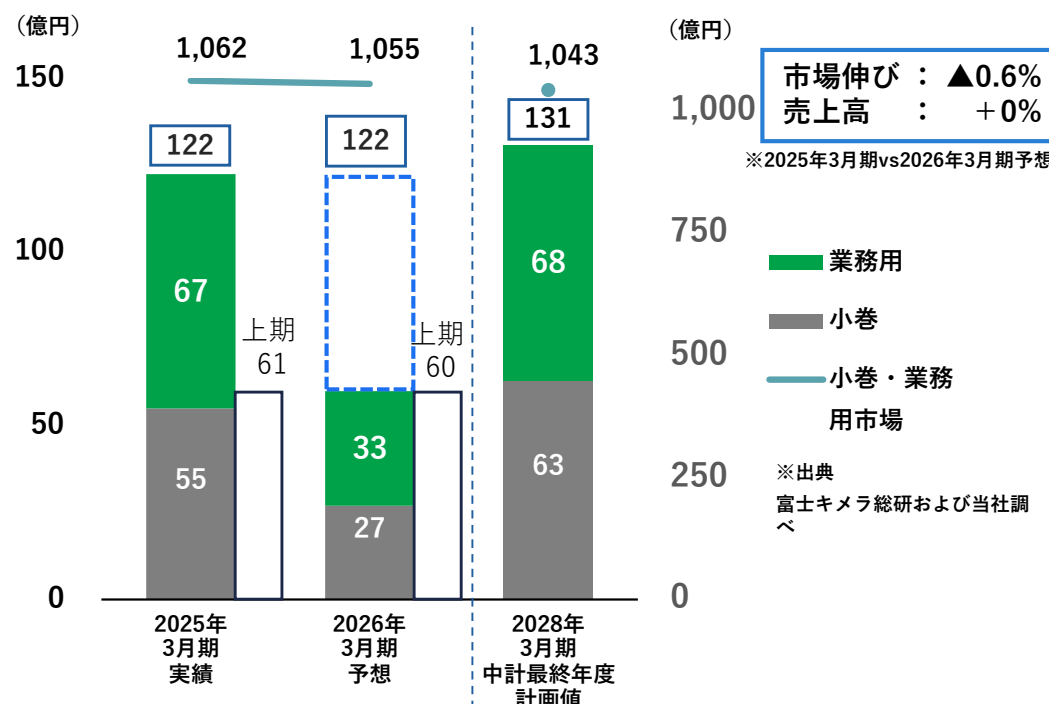
- 国内では、医療用エラストマーコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、ASEANでの日系顧客向け血液透析回路の販売が増加し、増収

### 2026年3月期 下期施策

- 国内では、医療用エラストマーコンパウンドの顧客承認を進める
- 海外では、輸入製品から自国生産に切り替えるASEANの非日系顧客への拡販

## 重点分野② 食品包材(小巻・業務用ラップ)

国内小巻・業務用ラップ市場と国内小巻・業務用ラップ売上高



### 2026年3月期 上期実績

- 国内では、食料品価格の上昇に伴う消費マインド低下により販売数量が減少

### 2026年3月期 下期施策

- 小巻ラップは、塩ビラップの特徴（良く伸びて、良くはりつく）を訴求し、販売数量を増加
- 業務用ラップは、アウトパック市場向け新製品を確立し、販売開始

# Electronics

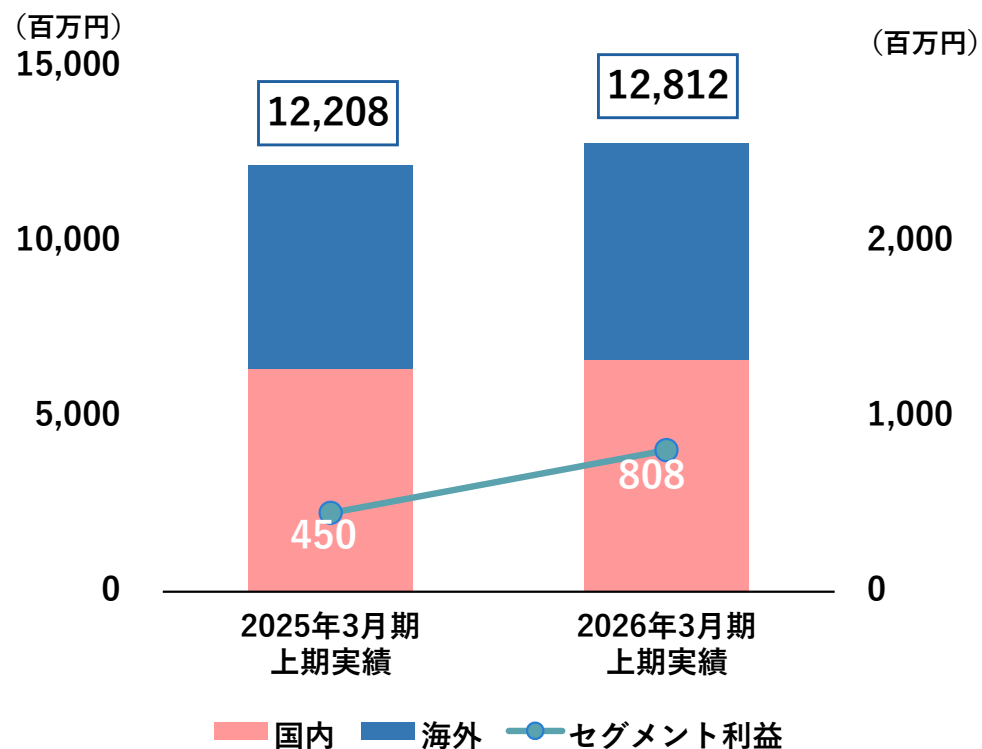


ELECTRONICS



2026年3月期  
上期実績

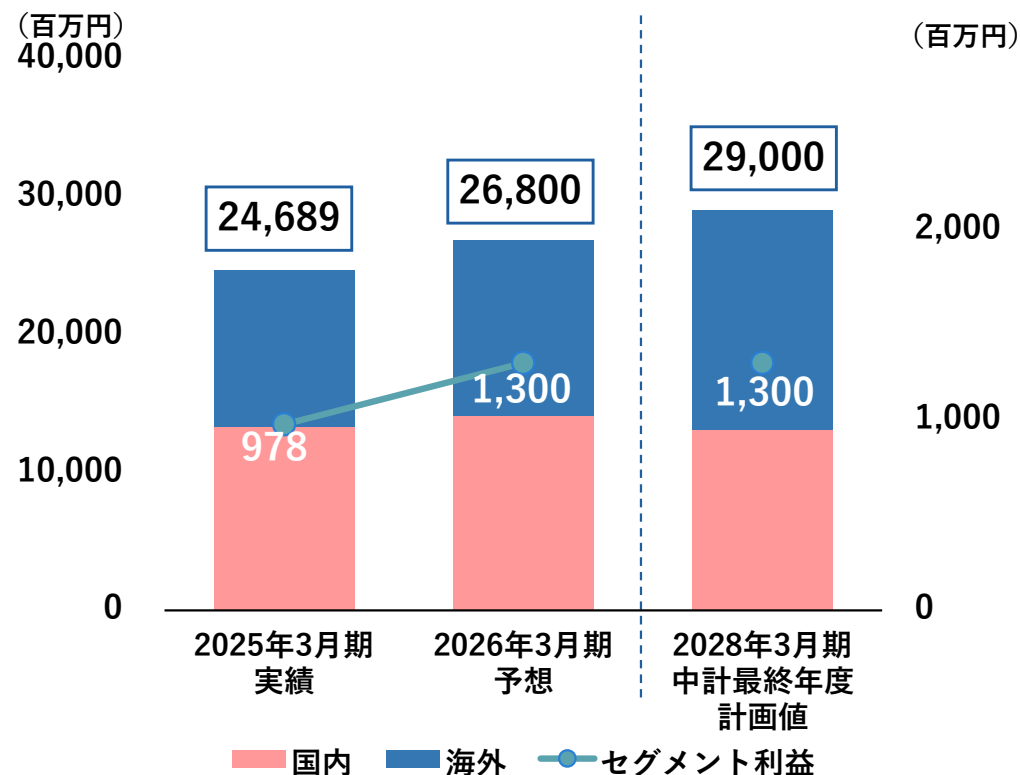
604百万円増収 (+4.9%)  
358百万円増益 (+79.5%)



- 国内では、電線需要が低迷する中、原材料の価格転嫁が進み、増収
- 海外では、タイ国市場・中国市場における塩ビコンパウンドの拡販が進み、増収
- セグメント利益は、国内におけるコンパウンドおよびフィルムの価格適正化により、増益

2026年3月期  
通期予想

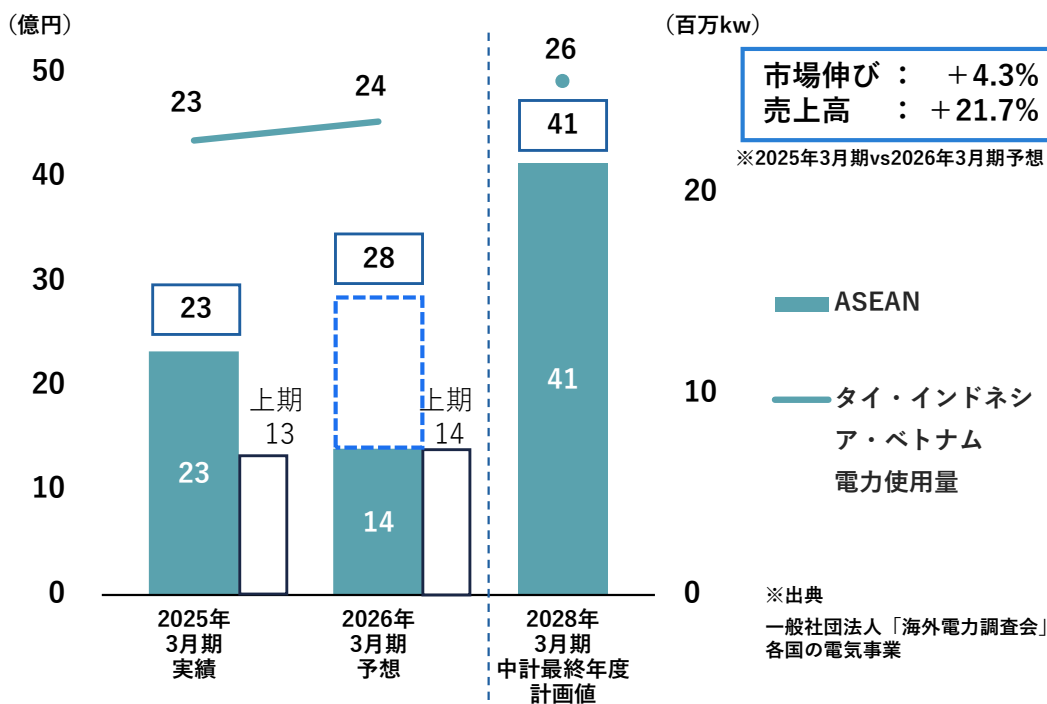
2,111百万円増収 (+8.5%)  
322百万円増益 (+32.9%)



- 国内では、機能性フィルムの販売が低下するものの、原材料の価格転嫁が進み、増収
- 海外では、タイ国市場・中国市場における塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- セグメント利益は、国内におけるコンパウンドおよびフィルムの価格適正化により、増益

## 重点分野① 電力・産業電線(ASEAN)

ASEAN電気使用量と当社塩ビコンパウンド売上高



### 2026年3月期 上期実績

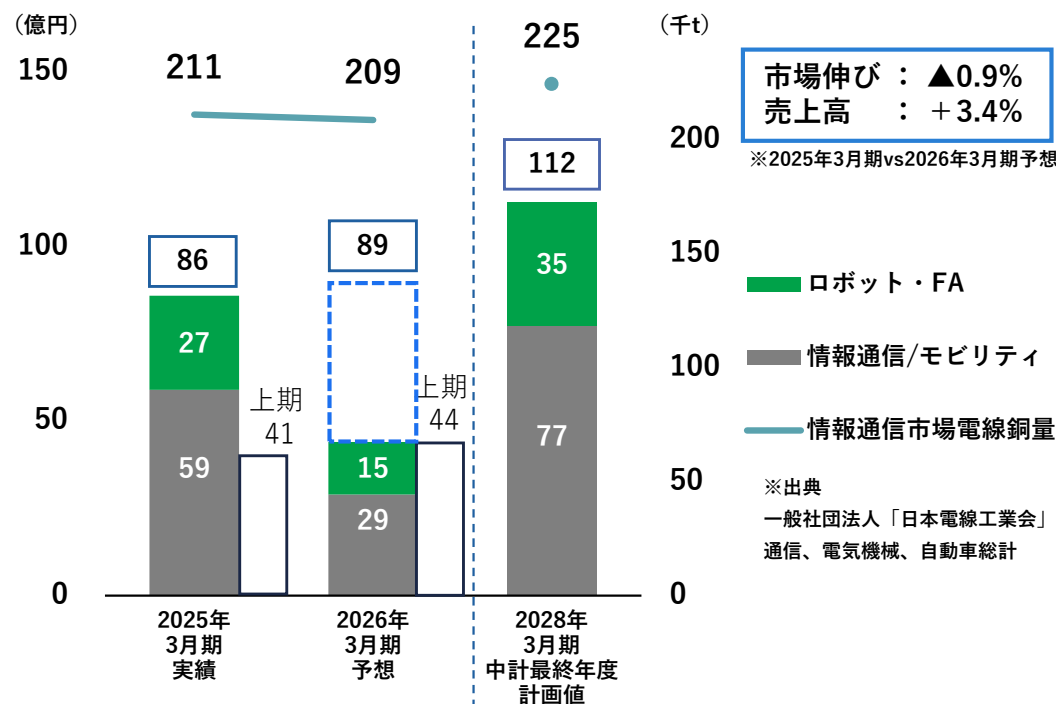
- インドネシア国は電力向け投資の抑制により販売が減少するも、タイ国における電力・産業電線市場向けコンパウンドの拡販により、増収

### 2026年3月期 下期施策

- タイ国における電力・産業電線市場向けコンパウンドの非日系電線メーカー向け販売拡大を図るとともに、ベトナム国における電力・産業電線市場への参入

## 重点分野② 情報通信/モビリティ/ロボット・FA

国内生産の情報通信市場向け電線銅量と当社コンパウンド売上高



### 2026年3月期 上期実績

- 国内では、車載ケーブル市場向け、EV充電ケーブル向けコンパウンドの拡販が進むも機能性コンパウンドの販売が減少し、減収
- 海外では、中国におけるセンサーケーブル市場への拡販により、増収

### 2026年3月期 下期施策

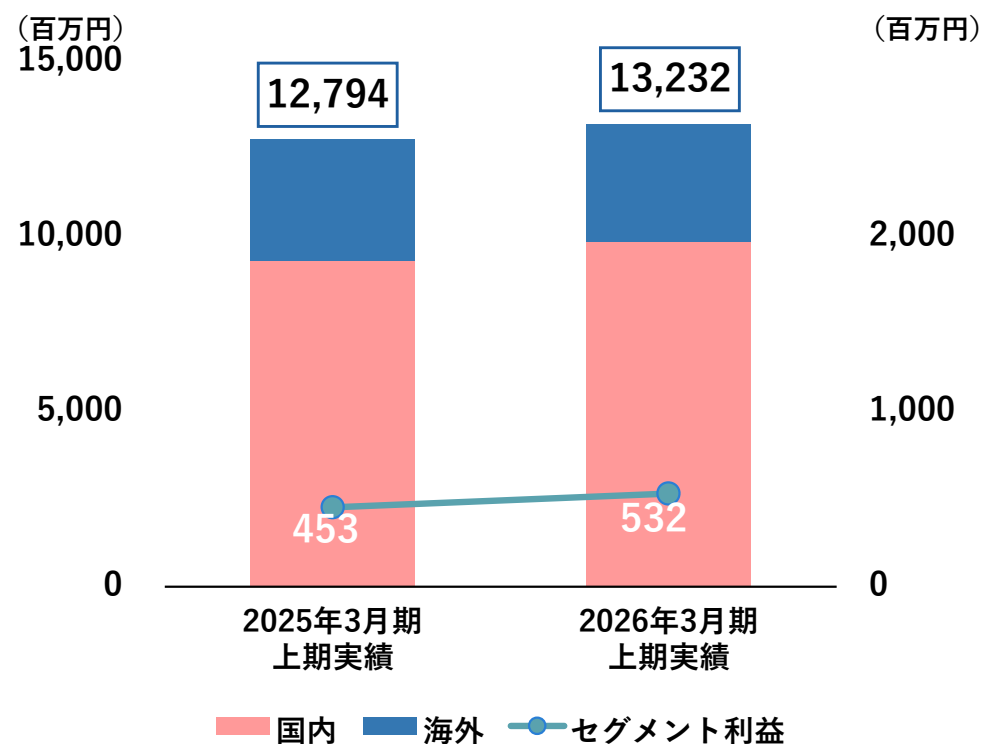
- 国内では、車載・光ケーブル等の情報通信/モビリティ市場への更なる拡販
- 海外では、中国市場の販売拡大を図るとともに、ASEANへ進出する顧客への拡販

# Building & Construction



2026年3月期  
上期実績

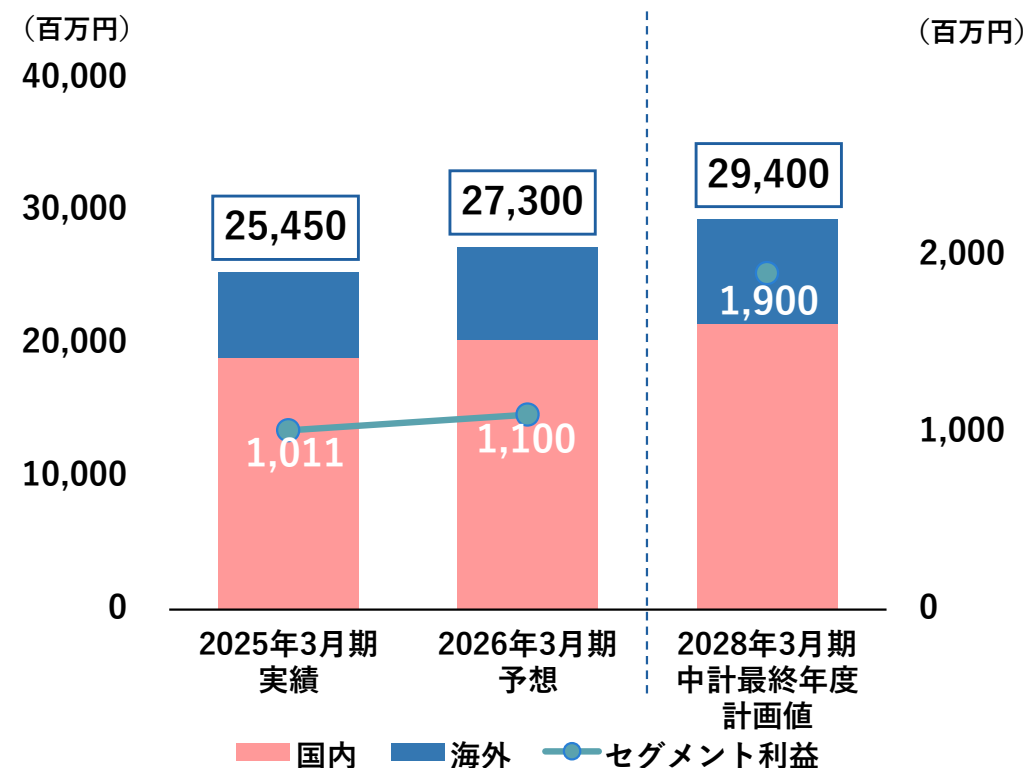
438百万円増収 (+3.4%)  
79百万円増益 (+17.4%)



- 国内では、コンパウンドおよびフィルムの価格適正化、および塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、タイ国での塩ビコンパウンドの販売が減少し、減収
- セグメント利益は、国内におけるコンパウンドおよびフィルムの価格適正化により、増益

2026年3月期  
通期予想

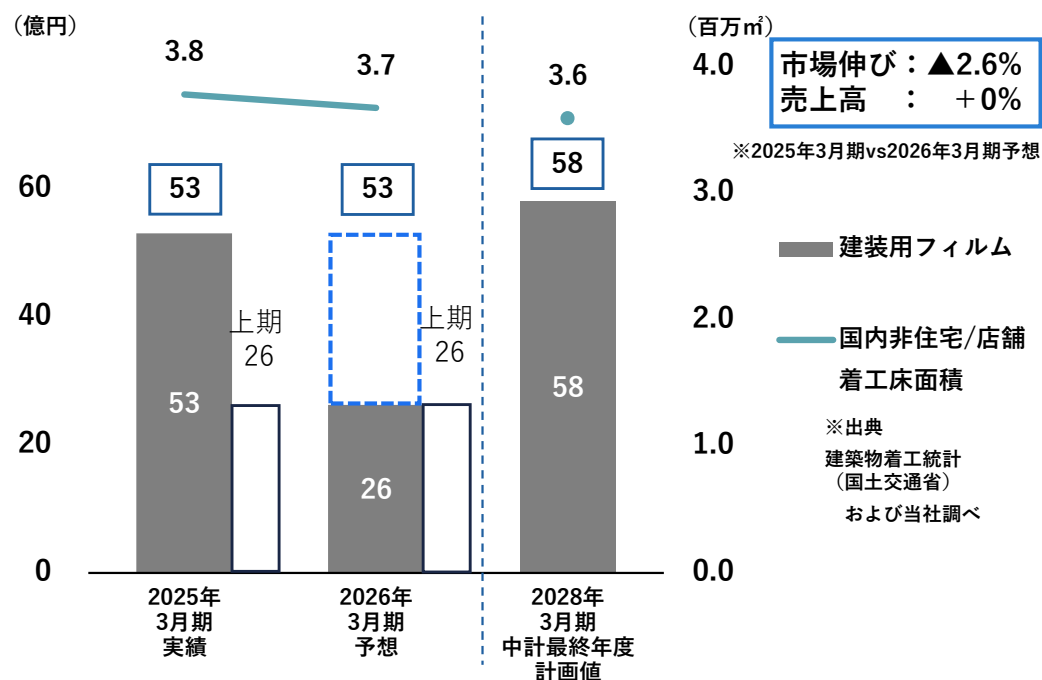
1,850百万円増収 (+7.2%)  
89百万円増益 (+8.8%)



- 国内では、コンパウンドおよびフィルムの価格適正化により、増収
- 海外では、北米での販売が増加し、増収
- セグメント利益は、国内外での販売が増加し、増益

## 重点分野① 建装用フィルム

国内非住宅/店舗着工床面積と当社建装用フィルム売上高



### 2026年3月期 上期実績

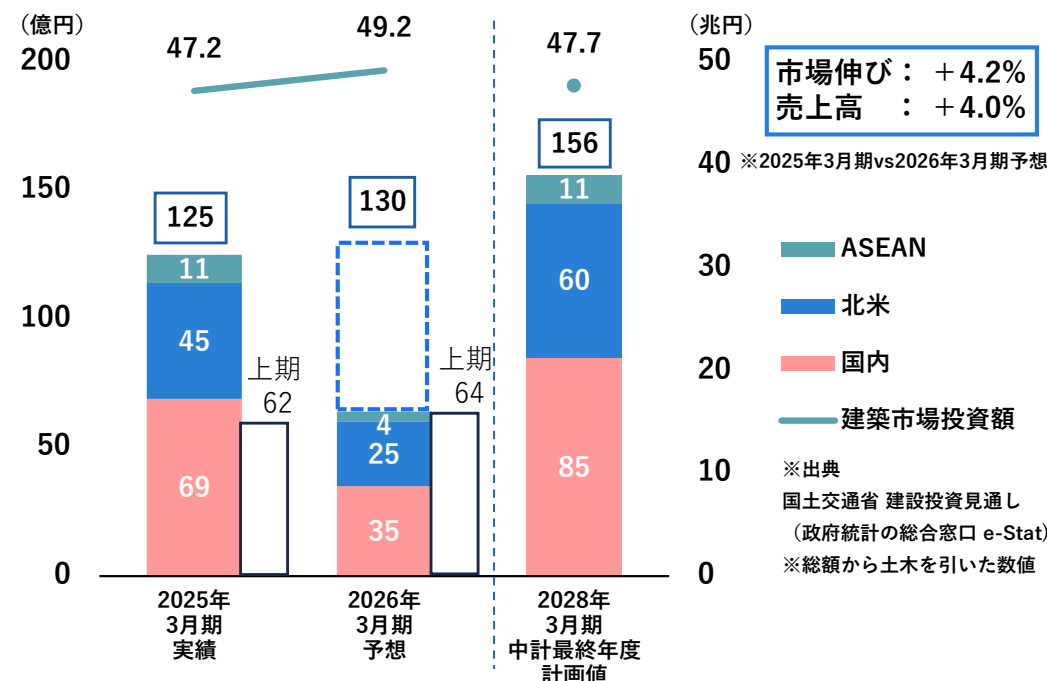
- 印刷基材用フィルムは、顧客対応力が評価され、当社品への切り替えが進み、前年並みを維持
- 高級壁装用フィルムは販売増加に向け、機能（環境対応、高耐候等）提案、トレンドを反映したデザイン提案を実施

### 2026年3月期 下期施策

- 印刷基材用フィルムの拡販
- 高級壁装用フィルムは提案した機能製品の顧客承認獲得

## 重点分野② 住宅・建築資材

国内建設市場投資額と当社住宅・建築資材向けコンパウンド売上高



### 2026年3月期 上期実績

- 国内では、住宅省エネ2025キャンペーンによる樹脂サッシ材料の拡販が進み、増収
- 海外では、ASEANでの塩ビコンパウンド販売が減少し、減収

### 2026年3月期 下期施策

- 国内では、住宅分野における塩ビコンパウンドを拡販
- 海外では、住宅・非住宅分野の異形押出し製品市場への拡販



# 2026年3月期 上期決算説明

## SECTION

- 01 2026年3月期 上期決算概要
- 02 セグメント別概況
- 03 中長期的取り組み

# 3ヵ年中期経営計画

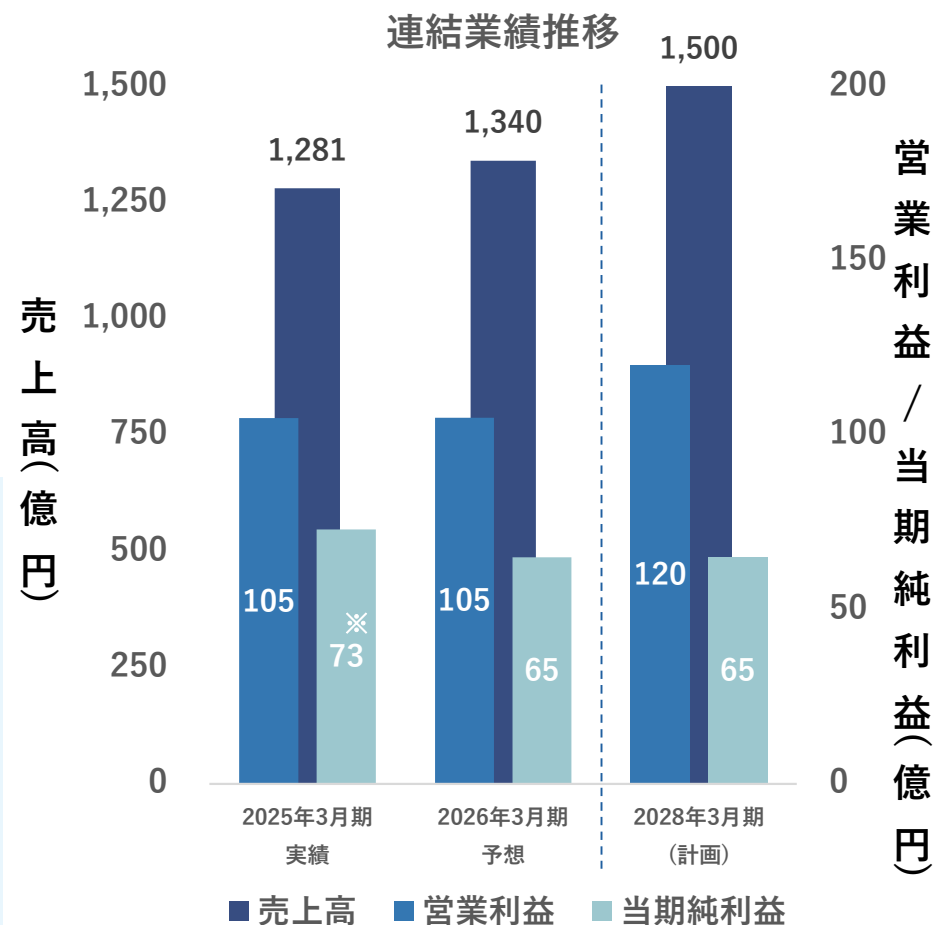
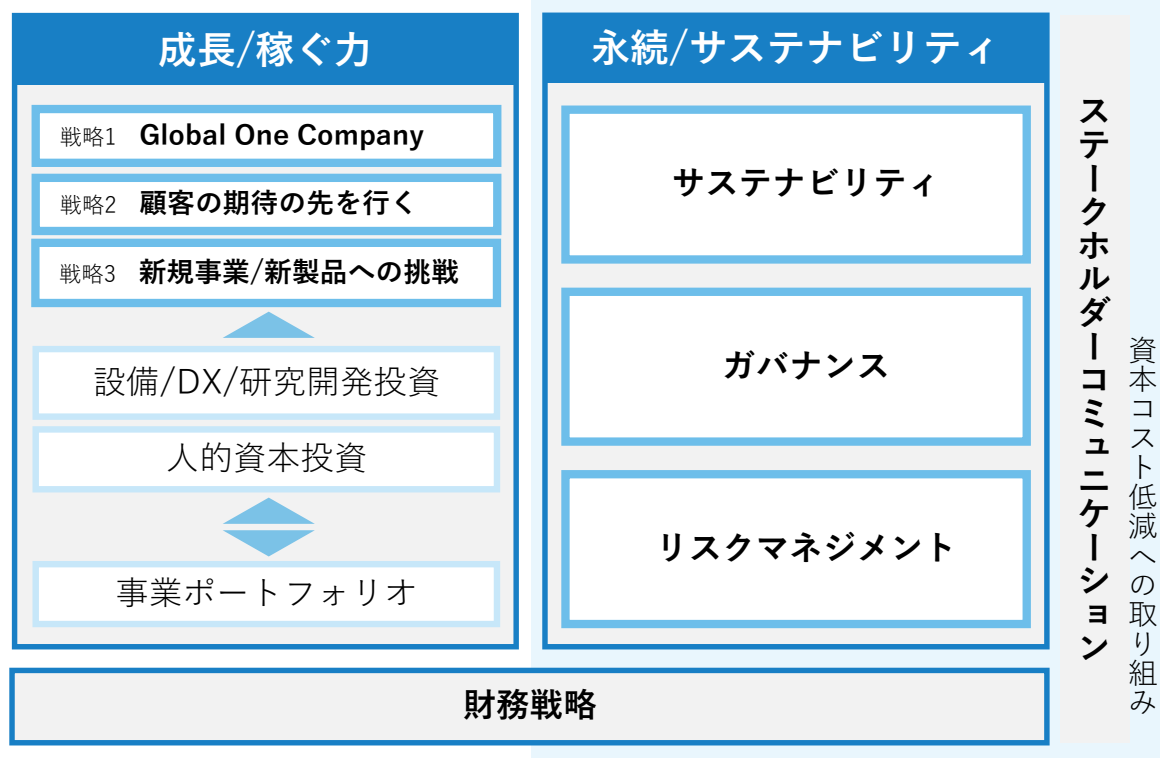


## 経営方針



## One Vision, New Stage 2027

### 3ヵ年中期経営計画 One Vision, New Stage 2027



※政策保有株式売却益11億円を含む

#### 3ヵ年中期経営計画 前提条件

ナフサ価格：70,000円  
為替：140円/USD

#### 2028年3月期 計画

ROS : 8.0%  
ROE : 10.0%  
ROIC : 11.0%  
EBITDA : 170億円

# 3ヵ年中期経営計画「稼ぐ力」の戦略(2026年3月期上期実績)



## 戦略① Global One Company

- ・グローバル横串運営の更なる進展
- ・会社単位運営からFunction単位運営(グローバル一体経営)の進展

- ・ グローバルに最適な生産体制の構築  
→食品包材事業の生産設備増強および三重工場の拡張決定
- ・ ものづくり統括本部によるグローバル横串体制の強化
- ・ ASEANにおける非日系顧客の開拓に注力
- ・ 原材料調達におけるグローバル化
- ・ グローバルネットワークベースのセキュリティシステム導入開始

## 戦略② 顧客の期待の先に行く

顧客の期待の先を行き、自ら仕掛けていく組織・人材への転換を図る

- ・ ものづくり統括本部による開発・製造・品質管理・購買の一体運営の深化  
→開発における購買部門の関与を強化
- ・ 製品評価技術の強化
- ・ サプライヤー・顧客との共同開発の拡充

## 戦略③ 新規事業/新製品への挑戦

新しい製品を世の中に送り出す  
＝マーケットに対して先駆者となる

- ・ ものづくり検討委員会で開発テーマの発掘
- ・ 知財部門によるIPランドスケープを活用した新規用途開拓
- ・ 産学連携プロジェクトの推進
- ・ 新規製品の売上高比率：13%(2025年9月末時点)

# 財務戦略 ― 価値創造するバランスシートへの改革 ―



- 価値創造に貢献しないAsset、必要以上の株主資本を持たない効率的なB/Sに向けた改革に取り組んでおり、下期以降に効果が発現

2026年3月期 上期実績

## 売掛金 売掛金サイトの適正化により抑制

+1億円 (2025年3月期比 +0.5%)

## 在庫 在庫水準の適正化

▲16億円 (2025年3月期比▲7.7%)

## 土地建物・機械・無形固定資産

### 群馬工場遊休地売却および減価償却が進み減少

▲22億円 (2025年3月期比▲6.6%)

### 国内主要工場にて投資案件進行中 (総額約140億円)

## 投資有価証券

### 売却により銘柄数減少するも、保有株の値上がりにより増加

+8億円 (2025年3月期比 +12.9%)

※政策保有株式▲3社 (2025年9月末時点：24社)

※投資有価証券の純資産に対する割合9.5%

## 借入金 成長投資に長期借入金を活用

※長期借入金 +14億円 (2025年3月期比 +7.7%)

## 純資産 自社株買い実施(上期24億円)

▲22億円 (2025年3月期比▲2.9%)

2025年3月期

総資産 1,164 (単位：億円)

現預金 245 (21.0%)	その他負債 79 (6.7%)
売掛金等 268 (23.0%)	買掛金等 211 (18.1%)
在庫 219 (18.8%)	借入金 117 (10.0%)
土地建物 機械 無形固定資産 332 (28.5%)	純資産 758 (65.1%)
投資有価証券 62 (5.3%)	
その他資産 39 (3.4%)	

2026年3月期(中間期)

総資産 1,147 (単位：億円)

現預金 257 (22.4%)	その他負債 99 (8.9%)
売掛金等 269 (23.4%)	買掛金等 199 (17.0%)
在庫 202 (17.6%)	借入金 114 (9.9%)
土地建物 機械 無形固定資産 310 (27.0%)	純資産 736 (64.1%)
投資有価証券 70 (6.1%)	
その他資産 40 (3.5%)	

B/S改革  
→

## ➤ 営業キャッシュフローとバランスシート改革で捻出した資金を成長/戦略投資、株主還元等に活用

### 中計3年間のキャッシュフロー

Cash In 560億円	Cash Out 560億円
営業 キャッシュフロー 300億円	基盤投資 110億円
	成長投資/研究開発費 250億円
BS改革 260億円	戦略投資/株主還元 200億円

注) 営業キャッシュフロー

BS改革

成長投資  
戦略投資

: CCC改善分を除く、研究開発費控除前、  
非支配株主配当控除後

: 現預金圧縮、CCC改善、政策保有株圧縮、  
借入金調達

: 能力増強、省力化/省人化投資等  
: M&A、新規事業、気候変動対応等

### 成長投資・戦略投資・株主還元の実施

#### 熱可塑性エラストマーコンパウンド生産設備増設（三重工場）

##### 新ライン増設

- ✓ 2025年度3Q 稼働予定
- ✓ 投資総額：約12億円



#### 食品包装用ラップ生産設備増設（埼玉工場・三重工場）

##### 新ライン増設による生産能力の強化

- ✓ 2026年度より順次稼働予定
- ✓ 投資総額：約40億円



#### 隣接地取得による工場拡張計画（三重工場）

##### 生産能力増強と効率化

- ✓ 完成時期：2029年10月(予定)
- ✓ 投資総額：約90億円



#### 太陽光発電設備の導入（タイ国・ベトナム国）

- ✓ 完成時期：2025年10月(タイ国)、  
2026年度2Q（ベトナム国）
- ✓ 投資総額：約4億円

#### 株主還元（自社株買いおよび配当）

- ✓ 約68億円（2026年3月期予想）

## 新製品開発・研究の取り組み

### ➤低比重高難燃コンパウンド

- ・ ハロゲン・アンチモンフリー設計
- ・ 電設資材用途の軽量化、敷設作業の施工性改善

### ➤素材転換による新規用途開拓に注力

- ・ 加硫ゴムのTPV\*化（軽量化・工程短縮化に貢献）
- ・ TPVの特性を活かした他熱可塑性樹脂代替

\*TPV:動的架橋型熱可塑性エラストマー

### ➤青果物用鮮度保持フィルム フレッシュバランス®

- ・ 通気性のある薄膜フィルムが青果物の鮮度を保持
- ・ 産地/流通過程で発生するフードロス削減に貢献

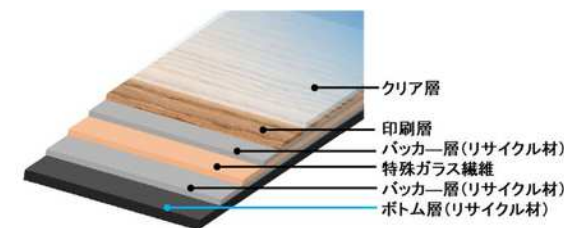


### ➤バイオマス加飾フィルム

- ・ 植物由来の原材料を使用することで、環境負荷、CO<sub>2</sub>排出量を低減
- ・ 従来フィルム同様の耐久性を維持しながら、多様な意匠表現が可能

## オープンイノベーションの取り組み

### ➤工学院大学との住宅用温熱タイルの共同研究



### ➤東京都のオープンイノベーション促進事業に採択（対象事業所：研究開発センター）

#### → 事業化検討テーマの選定 （大学発ベンチャー/スタートアップへの出資等含む）

ビジネス  
テーマ

産学・産産連携  
パイロット実装

社会実装

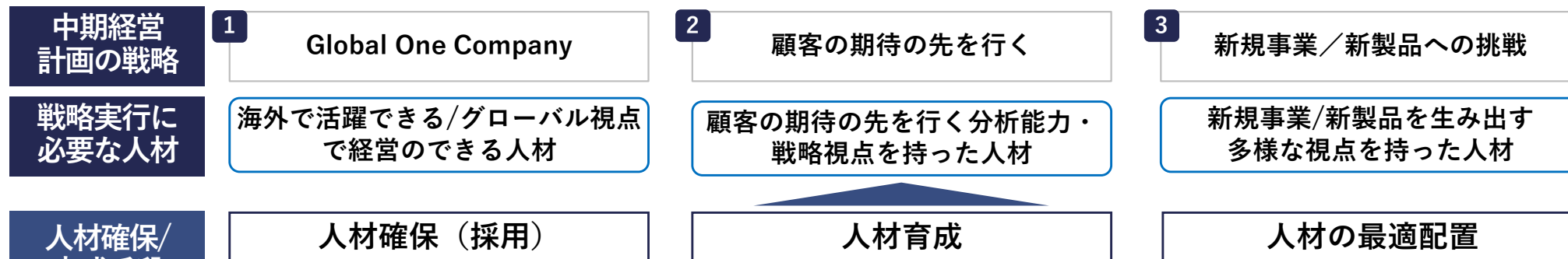
### 新規製品の売上高比率

（リケンテクノスおよび製造会社である海外連結子会社）

2028年3月期目標：23%



➤ 中期経営計画の達成に向け人材面においても、人材確保・育成における取り組みを推進



多様な人材が活躍できる企業風土の醸成・仕組みづくり・経営理念の浸透

人材確保/  
育成への  
取り組み

## 人材確保（採用）

- 実績**
- 全社をあげた全社員参加型採用活動への取り組み
    - ・ 1 Day仕事体験参加者との紐帯強化
    - ・ 大学/研究室との人的リレーション強化（役員/従業員の出身大学、産学連携の実施大学）

### 今後の施策

- 海外志向型人材/留学生をターゲットとした採用強化
- スペシャリスト採用強化のための各種制度見直し

## 人材育成

- 実績**
- 新入社員の現場研修カリキュラム見直し（製造/品管の交互研修、会計知識研修）

### 今後の施策

- 海外現法ナショナルスタッフのグローバル化/経営人材育成策の策定

## 仕組みづくり（エンゲージメント向上策）

- 実績**
- 従業員株式給付制度導入、従業員投資会奨励金引き上げ（付与率100%、上限5千円）

### 今後の施策

- 管理職の処遇制度見直し、自立的キャリア形成を促すポストチャレンジ制度導入

## サステナビリティ

### 実績

#### ➤ 気候変動への対応

CO<sub>2</sub>排出量削減施策の検討、実施

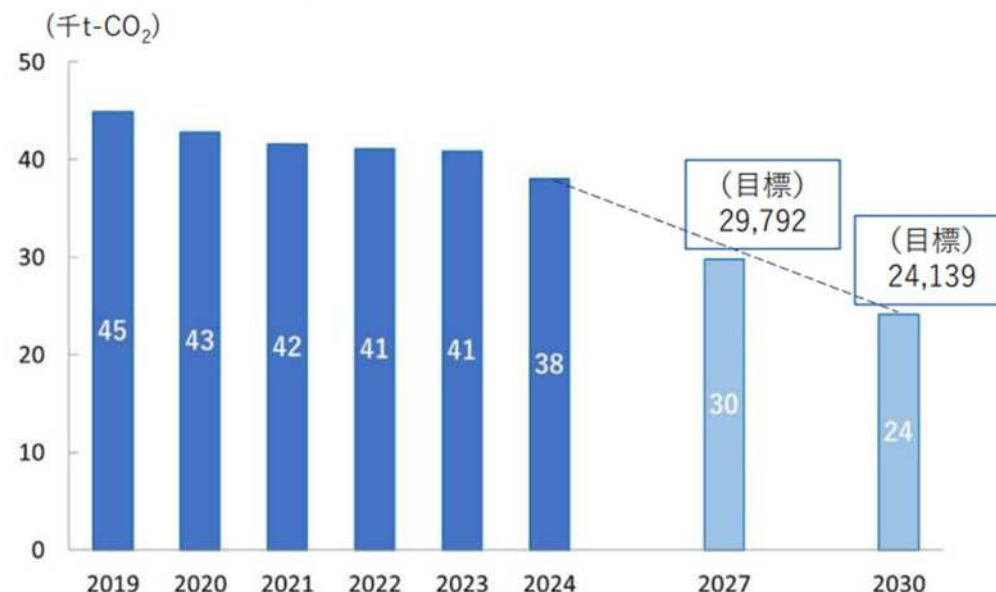
- ・タイ国製造子会社での太陽光発電設備完成
- ・ベトナム国製造子会社での太陽光発電設備導入決定



### 今後の施策

- 市場が求める環境対応製品の開発
- 太陽光発電設備の増設
- ボイラーのエネルギー転換の計画具体化
- TNFD対応（自然環境、生物多様性への影響評価）

### CO<sub>2</sub>排出量（Scope1+2）の推移（単体）



### ■ 当社グループのCO<sub>2</sub>排出量





## ガバナンス

### 実績

- 女性取締役1名増員（2025年6月～）
- 役員報酬に中長期業績連動報酬を導入  
（中計／マテリアリティ／人材多様性との連動）
- 連結子会社との連携強化策実施  
（中計説明会／情報共有会／月次ミーティング／  
内部統制の強化等）

### 今後の施策

- 実効的なグループ経営管理策の実施  
（子会社経営管理者層の育成、本社サイドによる  
経営状況のモニタリング・フォローアップ  
体制強化）
- グループ経営を担う人材層の充実化  
（ナショナルスタッフ幹部登用を展望した採用／  
育成等）

## リスクマネジメント

### 実績

- 事業継続計画（BCP）の強化  
（原材料／設備面のリスク調査等）
- 仕入先への人権デューデリジェンス進捗

### 今後の施策

- 事業継続マネジメント（BCM）の高度化
- 仕入先とのパートナーシップ構築・強化

## ステークホルダーコミュニケーション

### 実績

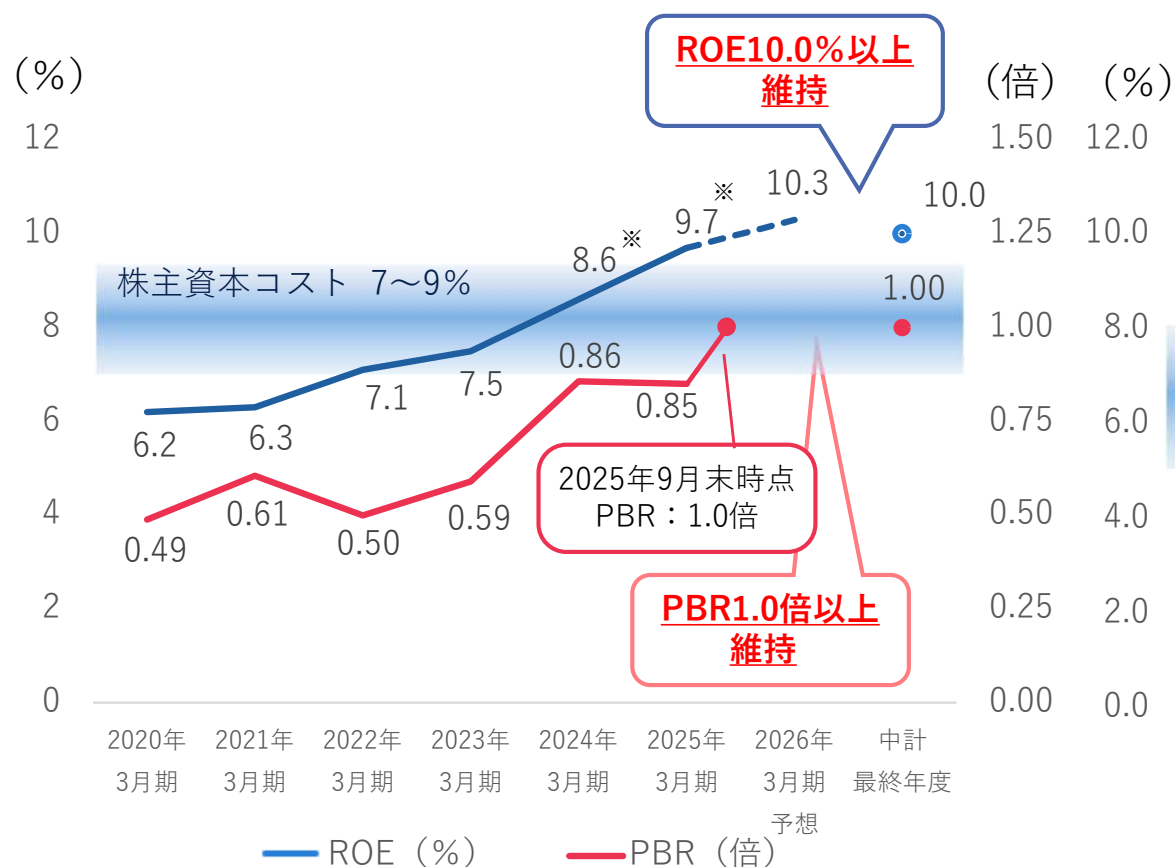
- IR／SR面談の拡充  
（上期 93社（前年同期 86社））
- 有価証券報告書の総会前開示（総会2日前）
- 短信／有報／適時開示書類の英文同時開示

### 今後の施策

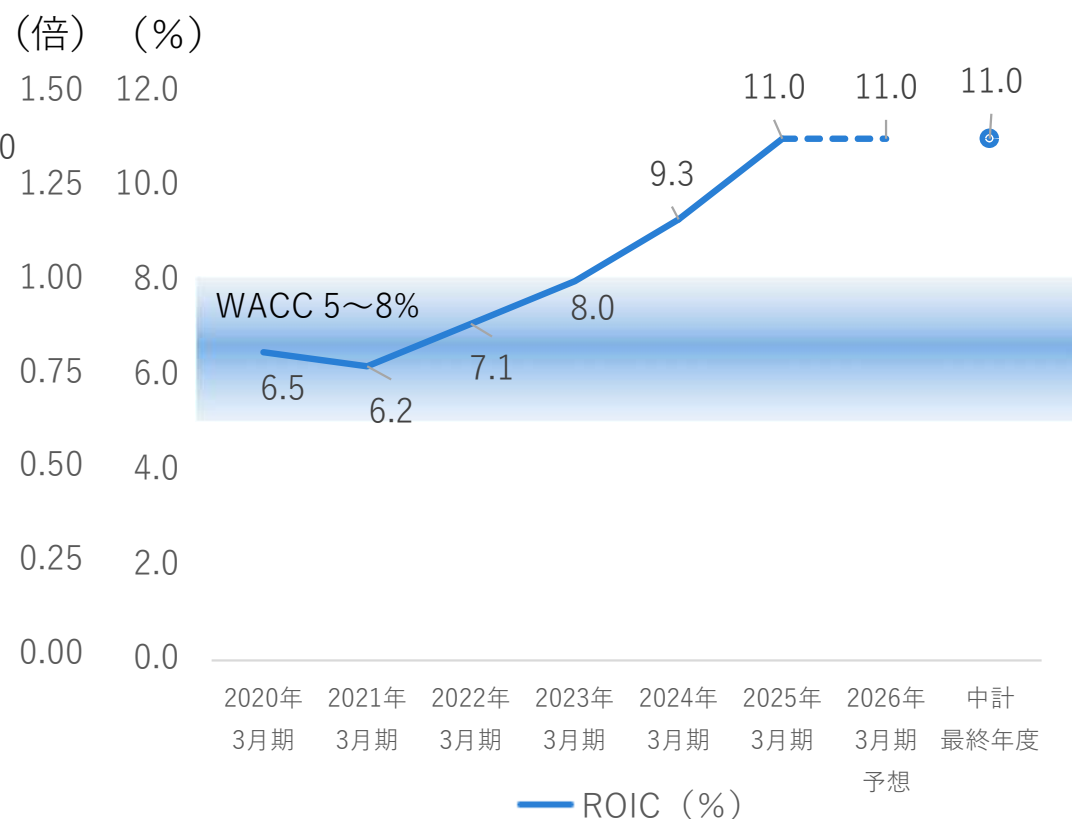
- 有価証券報告書の開示早期化（総会9日前）
- 地域社会への貢献／対話・連携の強化

➤ 今3ヵ年中期経営計画においてもROE10.0%以上を維持し、PBR1.0倍以上の維持を目指す

## ROE、PBRの推移

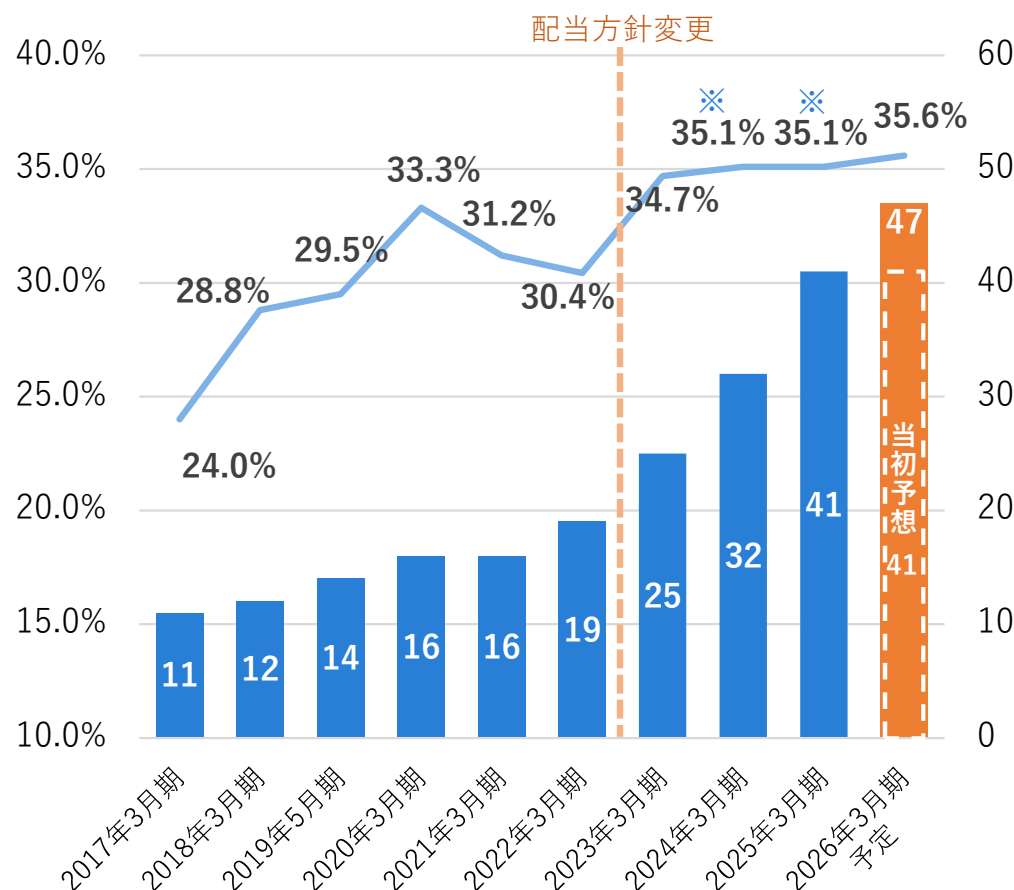


## ROIC、WACCの推移



- 財務状況と事業のバランスも考慮しつつ安定的な配当を実施
- 配当方針は、連結配当性向35%程度を目途とし、2026年3月期も増配予定

配当性向と配当額推移



※ 投資有価証券売却益の影響額を除いた1株当たり当期純利益で算定  
(売却額は自己株式取得資金に全額充当) した場合の連結配当性向

2026年3月期 配当見通し

- 前期41円 ⇒ **47円に6円の増配予定**  
(期初予想比6円の上方修正)
- **連結配当性向は、35.6%**

配当総額  
(予想)  
23億円

2026年3月期 自己株式の取得/消却

- **7/31 自己株式150万株の取得決議**
- **10/31 自己株式150万株の取得決議**  
※取得した株式は全株消却予定
- **6/30 自己株式200万株消却実施**

取得総額  
(予想)  
45億円

総還元性向の推移

2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期(予想)
129.1%	81.1%	<b>105.7%</b>

# 免 責 事 項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

[webmaster@rikentechnos.co.jp](mailto:webmaster@rikentechnos.co.jp)

経営企画部/経理部





社名	リケンテクノス株式会社
設立年月日	1951年（昭和26年）3月30日
資本金	85億14百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 常盤和明
従業員数	連結1,908名 単体793名（2025年9月30日現在）
本社所在地	〒101-8336 東京都千代田区神田淡路町 二丁目101番地 ワテラスタワー



創業当時から引き継いでいる「ベンチャー精神」こそ、リケンテクノスの強みであり、「リケンテクノスらしさ」です。

この「リケンテクノスらしさ」をもとに経営理念である「リケンテクノス ウェイ」は策定されました。

ミッションにある「チャレンジメーカー」という言葉は造語ですが、

製造業という意味でのメーカーの他に、挑戦して何かを創り出す人という意味もこめられています。

未来への飛躍のために、これからも挑戦し続けていきます。



## ミッション “使命・存在価値”

私たちは科学の力で

豊かさ、安心、快適を創り出すチャレンジメーカーです。

独創的で卓越した、樹脂素材の配合加工技術で、

企業と人と社会に新たな価値と喜びを提供し続けます。

## コア・バリュー “基本的価値観”

信頼しあい貢献しあう 新しい価値を生み出す

常に挑戦し成長する 仕事を楽しみワクワクする

共に解決し共に喜ぶ

## 基本行動 “具体的な行動指針”

失敗を恐れず前向きにやってみる 主役になって仕事を楽しむ

信頼しあう仲間となって助け合う 大事に聴いて本気で話す

笑顔で出てきて笑顔で帰る 顧客の期待の先に行く

新しいことマニアになる プロなんだから自分を磨く

決めたところまで決めた時期まで

## すべての生活空間に快適さを提供する リーディングカンパニーを目指して

### 10年後のありたい姿

to customers

新しい発想とアプローチで、  
「ものづくり」と  
「価値創造」を  
実現する

グローバルや新規分野への拡大と  
メーカーとしてのものづくりの  
未来へのチャレンジ

to society

社会・環境の変化に  
柔軟に対応し、  
サステナブルな社会  
に貢献する

企業として社会的責任を果たし  
持続可能な社会へ貢献

to employees

従業員一人ひとりが  
「やりがい」「誇り」  
を持ち、  
共に「成長」する

DE&Iの推進や働き方改革を踏まえ  
「人の成長こそ企業の成長」を実践



合成樹脂加工に係わる総合的な技術をベースに「コンパウンド」「フィルム」「食品包材」の3つの主要製品を柱に、様々な産業に用途に応じた製品を幅広く供給、国内外で事業を展開しています

## セグメント




主要製品	概要	トランス ポーション	デイリーライフ& ヘルスケア	エレクトロニクス	ビルディング& コンストラクション
コンパウンド	ベースの樹脂に添加剤を何種類か混ぜ合わせ、新しい性質を持たせた複合材料で、主に押出成形や射出成型に使われる素材。塩化ビニル樹脂をはじめ、熱可塑性エラストマー、難燃性・導電性高機能コンパウンドを開発、製造、販売	ワイヤハーネス被覆用コンパウンド  窓枠用コンパウンド 	シリンジガセット用コンパウンド  チューブ用コンパウンド 	パワーケーブル被覆用コンパウンド 	樹脂サッシ用コンパウンド 
フィルム	配合した樹脂の特性に適した製法で高品質フィルム製膜を実施。また、複数のフィルムを貼り合わせたり、表面に塗料をコートすることにより、意匠性や機能性を付与したフィルム製品を開発、製造、販売	自動車ウィンドウ用フィルム 	抗菌・抗ウイルスフィルム  リケーガード	半導体関連フィルム 	高級壁装用フィルム 
食品包材	日本で初めて塩化ビニル樹脂のラップを開発したパイオニアとして、家庭用から業務用まで、食品包装用ラップの品質・性能を追求するとともに、食品や自動包装機などに適したラップを開発、製造、販売	食品包装用ラップ 	リケンラップ ポタニカル® 		



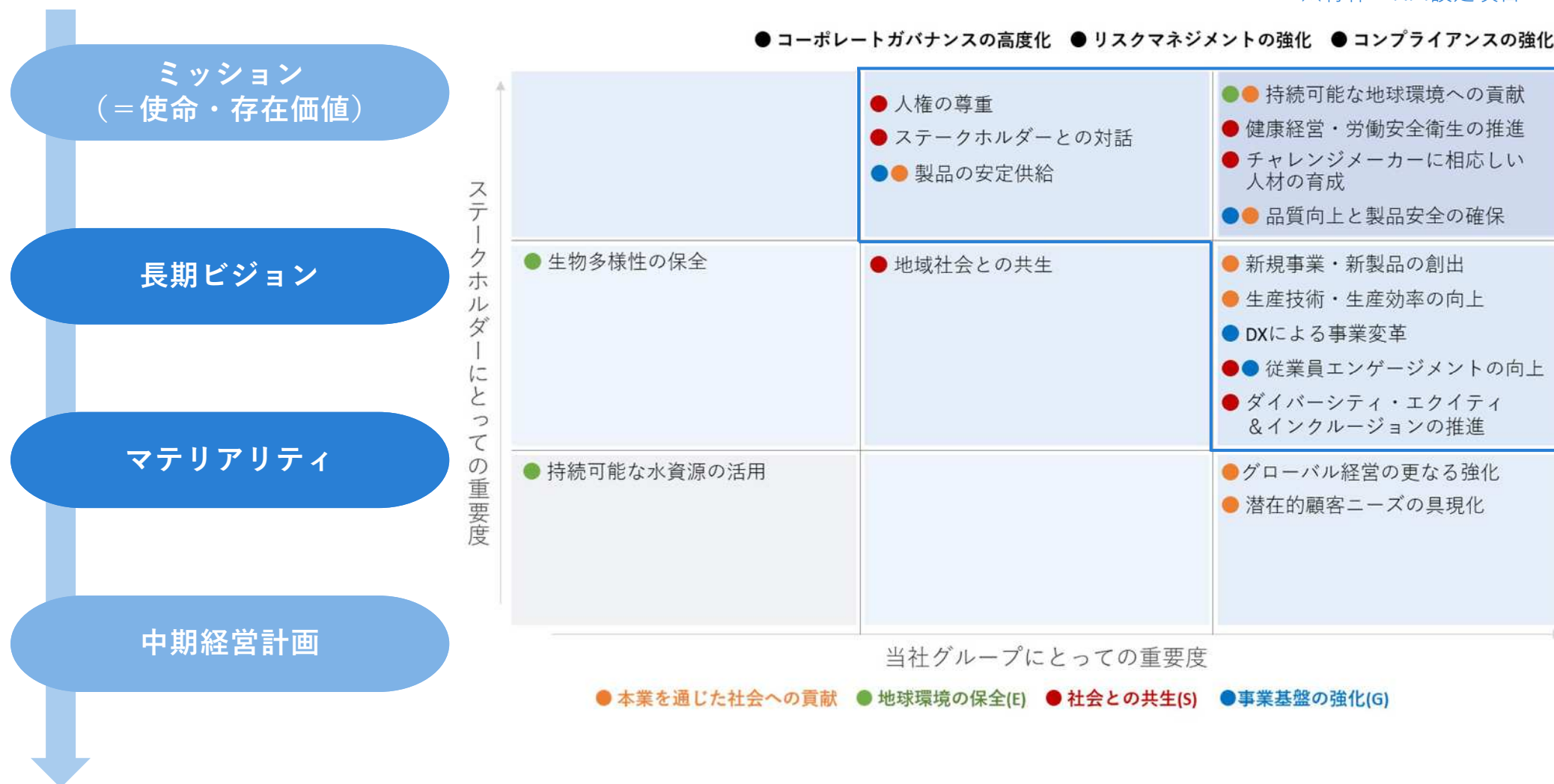
# 事業を通じた環境への貢献



- 従来事業の塩化ビニル、エラストマーにおいても「省エネルギー」や「省資源」、「リサイクル」などのテーマをもっています
- これら製品の拡販が環境保護に対する貢献につながります

製品	特徴	当社製品
塩化ビニル コンパウンド	<p>塩化ビニルの約60%は天然素材の「塩」に由来</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 耐久性・加工性・難燃性・耐候性など用途に応じた機能の付与が可能</li><li>・ 資源エネルギー消費量は、石油からの炭化水素を主とする樹脂(ポリエチレンやポリプロピレン)が45.6～46.5MJ/kgであるのに対して、塩ビは21.3MJ/kgと他樹脂の半分以下*であり、負荷が少ない</li></ul> <p>*出典：塩ビ工業・環境協会HPより作成</p>	<p>塩ビ樹脂製内窓用サッシ 形成材料としてリサイクルが可能</p> 
エラストマー コンパウンド	<p>「ゴム特性」を有しながら、CO<sub>2</sub>排出量削減、 省エネルギー化に貢献できる素材</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 熱可塑性エラストマーはリサイクル可能で、従来ゴムと比較して、成型時間も短いためCO<sub>2</sub>排出量を少なくできる</li><li>・ また素材の特徴として軽量なため、自動車の軽量化・燃費向上等の省エネルギー化に貢献する</li></ul>	<p>リケンテクノスの 各種TPVコンパウンド</p> 
遮熱フィルム	<p>熱吸収と熱線反射の機能付与により、 遮熱性能を高めた機能性フィルム</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ フィルムの均一性と透明性に優れているため、窓ガラスに貼ることでクリアな視界で快適な車内空間を演出できることに加え、遮熱性能によって室内空調効率の向上（省エネルギー化）にも貢献する</li></ul>	<p>自動車ウィンドウ用フィルム ICE-μ<sup>®</sup></p> 

※青枠：KPI設定項目



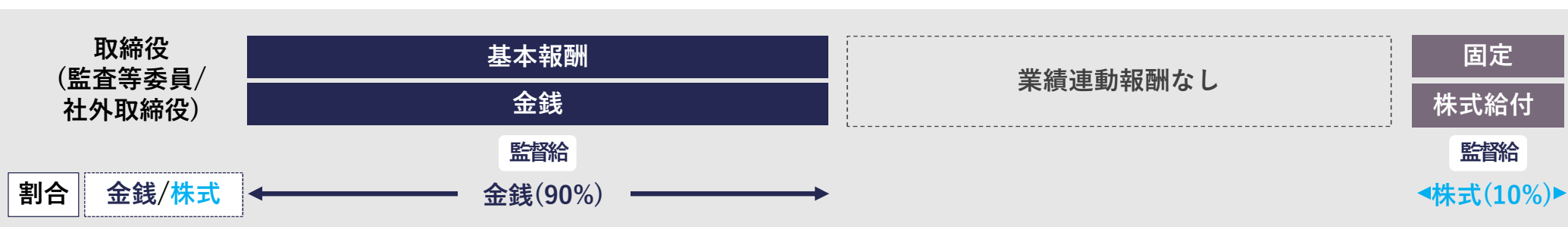
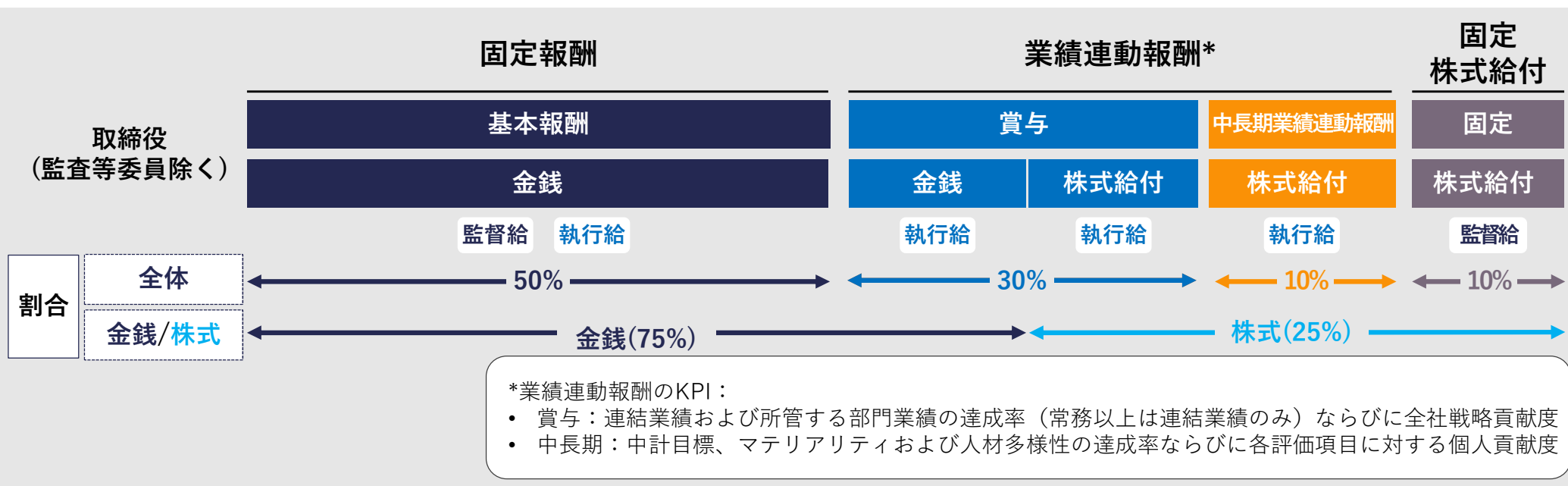
# マテリアリティの目標・指標（KPI）



マテリアリティ名称	評価の基準（KPI）	中長期目標	
		2027年度	2030年度
持続可能な地球環境への貢献	・ 2030年CO <sub>2</sub> 排出量削減目標値の達成（単体）	29,792t	24,139t (2019年度比46.2%減)
	・ 2050年カーボンニュートラル（グループ）	-	-
	・ 総廃棄物量の総生産量比（単体）	3.2%以下	3.0%以下
健康経営・労働安全衛生の推進	・ 休業労災発生件数（国内）	0件	0件
	・ 健康経営優良法人の認定	認定取得	認定維持
チャレンジメーカーに相応しい人材の育成	・ 一人当たりの育成費用（単体）	160千円	200千円
	・ 従業員意識調査における対象設問のポジティブ回答率（単体）	70%	75%
品質向上と製品安全の確保	・ 市場回収を伴う重大品質事故（単体）	0件	0件
	・ 化学物質の使用に関する法令遵守・重大法令違反（単体）	0件	0件
新規事業・新製品の創出	・ 特許出願件数（単体）	2025～2027年度 累計75件	2022～2030年度 累計210件
	・ 新規製品の売上高比率（単体および海外製造子会社）	23%	25%
生産技術・生産効率の向上	・ 生産キャパシティ（単体）	2021年度比 +11%	2021年度比 +15%
DXによる事業変革	・ MI人材※の育成（単体） ※MIを指導できるレベルの人材	15人	20人
	・ DX教育受講率（単体）	100%	100%
従業員エンゲージメントの向上	・ エンゲージメントスコア（ポジティブ回答率）（単体）	60%	70%
ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン（DE&I）の推進	・ 管理職に占めるグローバル人材※の割合（グループ） ※出身国以外での1年以上の勤務経験を有する人材	24%	26%
	・ 管理職に占める女性の割合（グループ）	20%	22%
人権の尊重	・ 人権尊重の浸透度（単体）	2025年度比 向上	2027年度比 向上
	・ 仕入先への人権DDの実施と改善対応率100%（単体）	100%	100%
ステークホルダーとの対話	・ 投資家、既存株主との面談実施（単体）	190件	220件
	・ 顧客満足度調査の結果に対するアセスメント対応率※（単体） ※対応が必要と判断した顧客のうち、改善対応を完了した顧客の割合	100%	100%
製品の安定供給	・ 中核製品の供給リスクの把握と方針の決定/対応（単体）	中核製品の供給リスクの 把握と方針の決定/対応	中核製品に関するリスク コントロールの強化

# 役員報酬体系

- 執行と監督を分離する機関設計としており、執行を担う取締役(監査等委員除く)の報酬は、取締役としての「監督給」と執行役員としての「執行給」を付与しています
- 業績連動報酬は、企業価値向上のインセンティブとなり、株主と価値を共有できる制度としています
- 重大な会計不正など一定の場合について、マルス・クロバック条項を設定しています





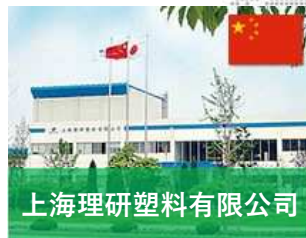
# グローバルネットワーク



- 製造会社
- 販売会社

- リケンテクノス株式会社
- 国内子会社

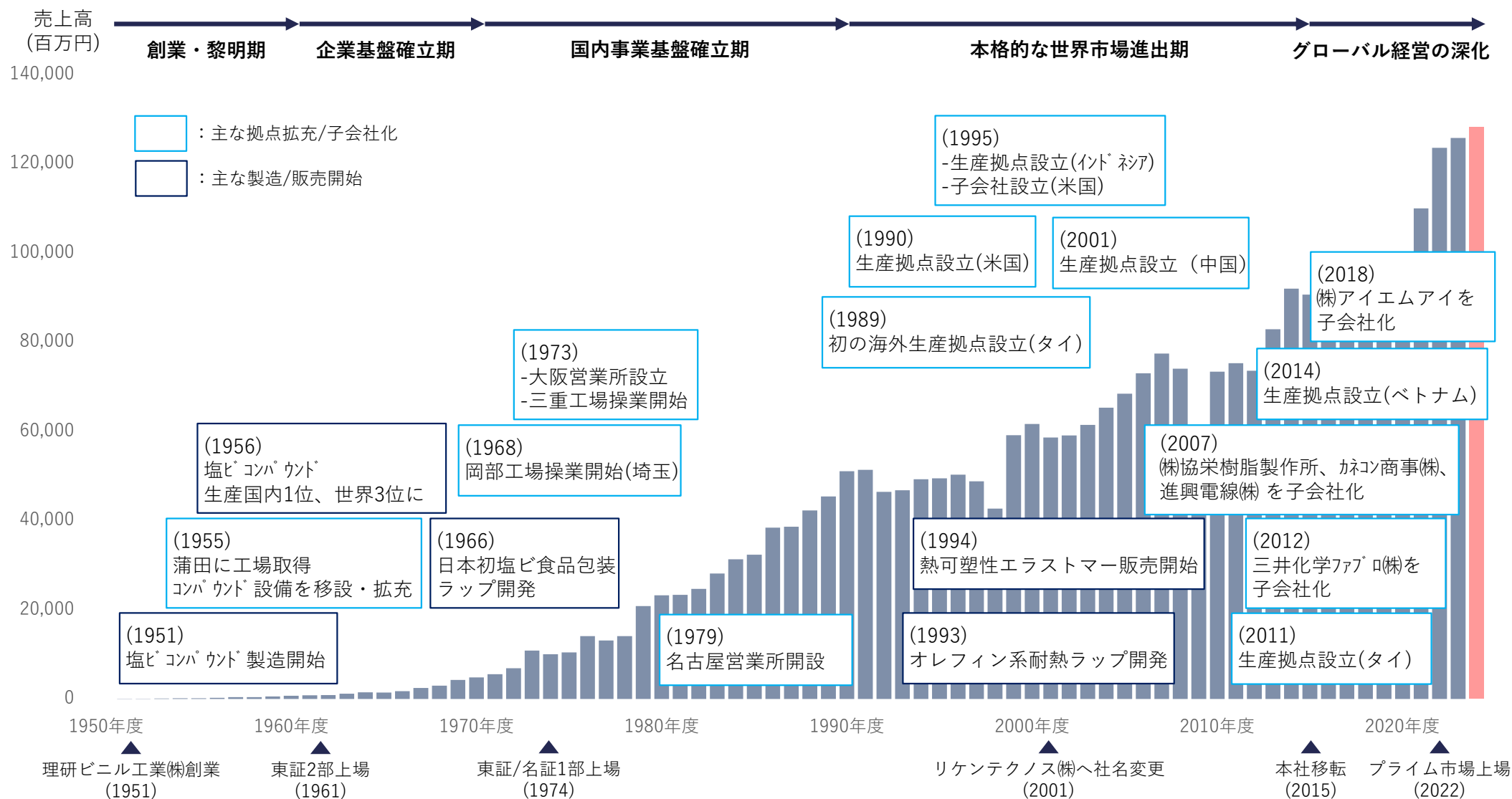
- リケンケーブルテクノロジー株式会社
- リケンケミカルプロダクツ株式会社
- 株式会社協栄樹脂製作所
- 株式会社アイエムアイ



# 価値創造のあゆみ



1951年の創業以来、国内・海外拠点を拡充させ、多くの製品を世に出し続けてまいりました。



\*1999年度より連結決算開始に伴い連結売上高を記載